



2013 / 2014 シーズン
OPERA

オペラ



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

2013.1

Contents

オペラ芸術監督 尾高忠明	2
2013/2014シーズン オペラ ラインアップ	3
リゴレット 新制作	4
フィガロの結婚	10
ホフマン物語	16
カルメン	22
蝶々夫人	28
死の都 新制作	34
ヴォツェック	40
カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師 新制作 ...	46
アラベッタ	52
鹿鳴館	58
平成25年度公演	64
平成25年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室	
愛の妙薬	66
平成25年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演	
夕鶴	68
平成25年度 新国立劇場 地域招聘公演 びわ湖ホール	
三文オペラ	70
公演一覧(1997.10～2013.6)	72

※本資料中のスタッフ・キャストはすべて予定であり、変更される可能性がございます。何卒ご承知おきください。

※演目の **あらすじ** は「新国立劇場 オペラ50 鑑賞入門」(世界文化社発行)より引用しています。
(ただし、「死の都」「鹿鳴館」「三文オペラ」を除く)

※消費税率の改定に伴い、2014(平成26)年4月1日以降、料金が変更になる場合があります。

2013/2014シーズン オペラ



オペラ芸術監督
Artistic Director (Opera)

尾高 忠明

Otaka Tadaaki

今までのシーズンを振り返り、皆様への深い感謝を胸に抱きながら、私にとって最後となる4シーズン目のラインアップをご紹介します。

ヴェルディ・イヤーにあたるこのシーズンは、新制作『リゴレット』でオープニングの幕を開けます。指揮はピエトロ・リッツォ、演出はアンドレアス・クリーゲンブルク。新しい演出による舞台が楽しみです。そして『フィガロの結婚』『ホフマン物語』、年が明けて『カルメン』『蝶々夫人』と、劇場が皆様とともに大切にしていかなければならない作品を敢えて取り上げます。これらのレパートリー作品をじっくりご堪能戴きたいと思います。新制作の2本目にあたる作品は、コルンゴルトの『死の都』です。あまり上演されることのないオペラですが、私が是非取り上げなかった作品のひとつです。難役といわれる主役の2役を始め、プロダクションに携わる人たちがこの作品の真価を示してくれることを期待しています。この後に、同じ時代を生きた作曲家の作品として、前回話題と呼んだ『ヴォツェック』が続きます。そして『カヴァレリア・ルスティカーナ』と『道化師』を、最後の新制作作品として取り上げます。誰もがいつかもう一度観たいと思っているこの2作品に、実力あるテノールのお二人が華を添えてくれます。私のオペラ芸術監督としての第1作は『アラベッラ』でした。観客の皆様は笑みをもたらす作品……最後のシーズンになんとしても再演したかった思い入れの深いこの作品も取り上げます。

4年間の締めくくりは日本オペラです。今後の日本オペラ発展の願いを込め、三島由紀夫原作の『鹿鳴館』で終わらせていただきます。

2013年1月

〈プロフィール〉

1947年生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事。指揮法、作曲、音楽理論、ホルンを学んだ。71年、NHK交響楽団の指揮でデビュー。72年、ウィーンに留学し、H. スワロフスキーに師事。オペラはシュパンナーゲルから学ぶ。74～91年、東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者。81～86年、札幌交響楽団正指揮者。92～98年、読売日本交響楽団常任指揮者。同時にヨーロッパ公演を成功に導く。87年にはBBCウェールズ交響楽団首席指揮者、96年からは桂冠指揮者に就任。95年には紀尾井シンフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー／首席指揮者に就任、2000年には同団初のヨーロッパ・ツアーを敢行、1998年には札幌交響楽団ミュージック・アドバイザー／常任指揮者に就任。世界各地の名門オーケストラへ客演も多く、ロンドン交響楽団、BBC交響楽団、バーミンガム市交響楽団、バンベルク交響楽団、メルボルン交響楽団等を指揮。オペラでは、77年の二期会『フィデリオ』をはじめ、91年英国のウェールズ・ナショナル・オペラ『サロメ』、98年には読売日本交響楽団でコンサート形式『ピーター・グライムズ』等を指揮。2008年札幌交響楽団でコンサート形式『ピーター・グライムズ』を指揮、各方面から高い評価を得た。1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、97年英国エリザベス女王より大英勲章 CBE を授与された。さらに99年には英国エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。2012年有馬賞 (NHK交響楽団) 受賞。

現在、NHK交響楽団正指揮者 (10年1月～)、札幌交響楽団音楽監督 (04年5月～)、BBCウェールズ交響楽団 (現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団) 桂冠指揮者 (1996年1月～)、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者 (91年4月～)、読売日本交響楽団名誉客演指揮者 (98年4月～)、紀尾井シンフォニエッタ東京桂冠名誉指揮者 (2003年9月～) を努めるほか、10年1月にメルボルン交響楽団の首席客演指揮者に就任。08年9月からは新国立劇場オペラ部門芸術参与を、09年9月からは同芸術監督代行を務めた。10年9月に同芸術監督に就任。また、東京藝術大学指揮科主任教授、相愛大学音楽学部客員教授、京都市立芸術大学音楽学部客員教授として後進の指導に当たっている。

(2012年12月)

2013/2014シーズン オペラ ラインアップ

〈新制作3演目／レパートリー 7演目 合計10演目49公演〉

2013.10

リゴレット ■新制作

Rigoletto | G. ヴェルディ
7回公演

2013.10

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro | W.A. モーツァルト
4回公演

2013.11～12

ホフマン物語

Les Contes d'Hoffmann | J. オフエンバック
5回公演

2014.1～2

カルメン

Carmen | G. ビゼー
5回公演

2014.1～2

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ
4回公演

2014.3

死の都 ■新制作

Die tote Stadt | E.W. コルンゴルト
5回公演

2014.4

ヴォツェック

Wozzeck | A. ベルク
4回公演

2014.5

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師 ■新制作

Cavalleria Rusticana / I Pagliacci | P. マスカーニ / R. レオンカヴァッロ
6回公演

2014.5～6

アラベッラ

Arabella | R. シュトラウス
5回公演

2014.6

鹿鳴館

Rokumeikan | 池辺晋一郎
4回公演

リゴレット

2013.10/3 ~ 22

新制作
New production

Rigoletto

オペラパレス | 7回公演 | 全3幕(イタリア語上演/字幕付)

初 演: 1851年3月11日/ヴェネツィア/フェニーチェ歌劇場

作 曲: ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

台 本: フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ Francesco Maria Piave

プロダクションについて

尾高監督4シーズン目は2013年ヴェルディ生誕200周年を祝し、新制作『リゴレット』で幕を開けます。演出は09年『ヴォツェック』(バイエルン州立歌劇場との共同制作)のアンドレアス・クリーゲンブルク。指揮は11年『イル・トロヴァトーレ』で好評を博したピエトロ・リッツォ。12年サンフランシスコ・オペラの『リゴレット』タイトルロールを歌ったマルコ・ヴラトニーヤが同役で登場です。マントヴァ公爵は11年の『椿姫』アルフレード役で美声を披露したウーキュン・キム、ジルダは10年『フィガロの結婚』でスザンナ役を好演したエレナ・ゴルシュノヴァが演じます。

あらすじ

【第1幕】マントヴァ公爵の宮廷の夜会に、モンテローネ伯爵が乱入して好色な公爵に娘を陵辱された怒りをぶちまける。公爵の道化師のリゴレットは嘲笑するが、激昂したモンテローネから公爵と一緒に呪いの言葉を投げられ、狼狽する。不具で醜いリゴレットの生き甲斐は娘のジルダだった。彼は清純な愛娘をひた隠しにし、教会に行く以外は外出も許さないほどだった。だが、学生に身をやつしたマントヴァ公が教会でジルダを見初め、隠れ家に忍び込んで娘の心を奪ってしまう。一方、公爵の威を借るリゴレットに我慢のならない廷臣達は、ジルダを彼の情婦と誤解し、鬱憤晴らしに連れ去る。

【第2幕】ジルダが消え失せ、狼狽するリゴレットだが、誘拐された娘が公爵の寝室にいることを知って、怒り、泣く。純真な娘を毒牙にかけた公爵を呪い、復讐を誓う。

【第3幕】川のほとりの殺し屋スパラフチーレの居酒屋。公爵を愛してしまった娘に彼の真実の姿を見せようと、リゴレットは士官に変装して居酒屋で戯れる公爵を見せる。居酒屋の女は殺しの相棒を務める妹マッダレーナ。ジルダは公爵の本性を知るが恋心は消えない。娘を先に行かせたリゴレットは殺し屋スパラフチーレに公爵殺しを依頼。殺し屋が準備を始めると公爵に惚れた妹マッダレーナが反対し、口論の末「身代わりを殺して報酬だけせしめよう」と決着する。それを立ち聞きしていたジルダは居酒屋に入り、スパラフチーレのナイフに倒れる。殺し屋から死体の袋を受け取ったリゴレットは、そこに瀕死の娘が入っていることに打ちのめされる。

ジュゼッペ・ヴェルディ

リゴレット

Giuseppe Verdi / Rigoletto

全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	ピエトロ・リッツォ
Conductor	Pietro Rizzo
演出……………	アンドレアス・クリーゲンブルク
Production	Andreas Kriegenburg
美術……………	ハラルド・トアー
Scenery Design	Harald Thor
衣裳……………	ターニャ・ホフマン
Costume Design	Tanja Hofmann
照明……………	シュテファン・ボリガー
Lighting Design	Stefan Bolliger

リゴレット ……	マルコ・ヴラトーニャ
Rigoletto	Marco Vratogna
ジルダ ……	エレナ・ゴルシュノヴァ
Gilda	Elena Gorshunova
マントヴァ公爵……………	ウーキュン・キム
Il Duca di Mantova	Woo-Kyun Kim
スparaフチャーレ……………	妻屋秀和
Sparafucile	Tsumaya Hidekazu
マッダレーナ……………	山下牧子
Maddalena	Yamashita Makiko
モンテローネ伯爵 ……	谷 友博
Il Conte di Monterone	Tani Tomohiro
ジョヴァンナ……………	与田朝子
Giovanna	Yoda Asako
マルッロ ……	成田博之
Marullo	Narita Hiroyuki
ボルサ ……	加茂下 稔
Borsa	Kamoshita Minoru
チェプラーノ伯爵……………	小林由樹
Il Conte di Ceprano	Kobayashi Yoshiki

合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年10月3日(木) 7:00	16日(水) 7:00
6日(日) 2:00	19日(土) 2:00
9日(水) 2:00	22日(火) 2:00
12日(土) 2:00	
オペラパレス	

【チケット料金(税込)】

S: 26,250円・A: 21,000円・B: 14,700円・C: 8,400円・D: 5,250円

【前売開始】2013年6月8日(土)

リゴレット

Giuseppe Verdi / Rigoletto

指揮：ピエトロ・リッツォ

Conductor : Pietro Rizzo

ローマ生まれ。ヴァイオリンを学んだ後、指揮に転向し、1997年から2000年までヘルシンキのシベリウス・アカデミーで指揮を学ぶ。00年から03年までフィンランド国立歌劇場、03年から07年までエッセン・アールト劇場、06年から09年までイエテボリ・オペラの首席指揮者を歴任。これまでにメトロポリタン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、スウェーデン王立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、サヴォンリナ・オペラ・フェスティバルなどで活躍。『アイーダ』『イル・トロヴァトーレ』『ドン・カルロ』『リゴレット』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』『アンナ・ボレーナ』『チェネントラ』などをレパートリーとしている。今後の予定には、韓国ナショナル・オペラで『ドン・カルロ』（13年4月）、ハンブルク州立歌劇場でドニゼッティ『ルクレツィア・ボルジア』（14年）、ベルリン・ドイツ・オペラで『ロベルト・デヴェリュー』（14年）、バイエルン州立歌劇場で『椿姫』と『モンテッキ家とカプレーティ家』（14年と15年）などがある。新国立劇場には11年『イル・トロヴァトーレ』に続き2度目の出演となる。



演出：アンドレアス・クリーゲンブルク

Production : Andreas Kriegenburg



ドイツのマグデブルク生まれ。ドイツ演劇界の鬼才にして、オペラ界でも斬新な試みによって数々の秀作を生みだしている気鋭の演出家。鋳型製作の技術を学んだ後、建具職人兼技術者としてマグデブルク劇場に勤務。ツィッタウとフランクフルト・アン・デア・オーダーで演出助手と演出家を務め、1991年にベルリンのローザ・ルクセンブルク広場フォルクスビューネの劇場所属の演出家になる。96年からハノーファー州立劇場、99年からはウィーン・ブルク劇場において業績を重ねる。2001年からハンブルク・タリア劇場において演出部責任者を務めた。他にも、ミュンヘン・カンマーシュピーレにおいて数多くの演劇作品を演出している。09年9月、ベルリン・ドイツ座の首席演出家に就任。オペラ演出としては、マグデブルク劇場において、06年に『オルフェオとエウリディーチェ』、07年に『イドメネオ』、10年にベルリン・ドイツ・オペラで『オテロ』、12年にフランクフルト・オペラで『トスカ』を演出。12年夏のミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ニーベルングの指環』新演出は世界が注目する中で大成功を収めた。

リゴレット：マルコ・ヴラトニーヤ

Rigoletto : Marco Vratogna

イタリアのラ・スペツィア生まれ。ブッチーニ音楽院で学ぶ。2000年トリエステのヴェルディ歌劇場『スティッフェリオ』スタンカールでオペラデビュー。その後、フェニーチェ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』バオロ・アルピアーニ、シュトゥットガルト歌劇場『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、ベルリン州立歌劇場『トスカ』スカルピア、ヴェローナ野外音楽祭『ナブッコ』タイトルロール、『アイーダ』アモナズロ、英国ロイヤル・オペラ『仮面舞踏会』レナートなどに出演。09年にはバイエルン州立歌劇場に『アイーダ』アモナズロ、ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）に『オテロ』イアーゴと、得意とするイタリア・オペラでデビューを飾った。他にもミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、ウィーン国立歌劇場など世界の一流歌劇場で活躍。12年9月にはサンフランシスコ・オペラのシーズンオープニング公演『リゴレット』タイトルロールでセンセーショナルなデビューを飾った。今後、ウィーン国立歌劇場で『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、ハンブルク州立歌劇場で『リゴレット』タイトルロールと『トスカ』スカルピア、チューリヒ歌劇場、バルセロナのリセウ劇場、メトロポリタン歌劇場で『オテロ』イアーゴなどが予定されている。新国立劇場初登場。



リゴレット

Giuseppe Verdi / Rigoletto

ジルダ: エレナ・ゴルシュノヴァ

Gilda : Elena Gorshunova

ロシアのベルミ生まれ。モスクワのグネーシン音楽アカデミーで声楽を学ぶ。2002年よりマリインスキー劇場のソリストとして数多くの作品に出演。他にもワシントン・オペラ、マドリードのレアル劇場、カナダのケベック・オペラなどに出演。『リゴレット』ジルダ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『カルメン』フラスキータ、『ばらの騎士』ゾフィー、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどをレパートリーとする。2010/2011シーズンよりザクセン州立歌劇場の専属歌手として活躍、『リゴレット』ジルダ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『魔笛』パミーナなどに出演を重ねている。新国立劇場には10年『フィガロの結婚』スザンナで初登場、透き通った美声と安定した演技で好評を博した。



マントヴァ公爵: ウーキュン・キム

Il Duca di Mantova : Woo-Kyun Kim



ソウル生まれ。同市の漢陽大学、ミュンヘン音楽大学で学ぶ。2003/2004シーズンよりザクセン州立歌劇場の専属歌手。バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなどに出演。『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『椿姫』アルフレード、『リゴレット』マントヴァ公爵、『ナブッコ』イズマエーレなどをレパートリーとする。2010年英国ロイヤルオペラ『リゴレット』マントヴァ公爵、バイエルン州立歌劇場『椿姫』アルフレード、ザクセン州立歌劇場『ファウスト』タイトルロール、ハンブルク州立歌劇場と11年バイエルン州立歌劇場で『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ザクセン州立歌劇場『オテロ』カッシオ、12年フランクフルト・オペラ『オテロ』カッシオ、トゥールーズで『皇帝ティートの慈悲』タイトルロールなどに出演。ヴェルディ・イヤーの13年は、ベルリン・ドイツ・オペラ『仮面舞踏会』リッカルドや、ミラノ・スカラ座やバイエルン州立歌劇場で『マクベス』マクダフなど一流歌劇場での活躍が予定されている。新国立劇場には11年『椿姫』アルフレードで初登場し好評を博した。

スバラフチーレ: 妻屋秀和

Sparafucile : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリップ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』ドン・バジリオに出演。『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉦蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『カルメン』スニガ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵でも出演予定。藤原歌劇団団員。



リゴレット

Giuseppe Verdi / Rigoletto

マッダレーナ: 山下牧子

Maddalena : Yamashita Makiko

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽科修了。第1回東京音楽コンクール第1位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロールなどを演じている。新国立劇場では、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』など数多く出演。2013/2014シーズンは『ホフマン物語』アントニアの母の声／ステッラ、『死の都』ブリギッタ、『ヴォツェック』マルグレイト、『鹿鳴館』女中頭草乃にも出演予定。二期会会員。



モンテローネ伯爵: 谷 友博

Il Conte di Monterone : Tani Tomohiro

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第27回リクルート・スカラシップ生としてミラノ音楽院に学ぶ。第68回日本音楽コンクール声楽部門第1位。1995年スロヴェニアのマリボール国立歌劇場で『ルチア』『セビリアの理髪師』に出演。その後ピストイア市立劇場で『ラ・ボエーム』『椿姫』などで主要な役を演じる。新国立劇場では『イル・トロヴァトーレ』『ラ・ボエーム』『トスカ』『黒船 一夜明け』『椿姫』などに出演し、常に高い評価を得ている。藤原歌劇団団員。

フィガロの結婚

2013.10/20 ~ 29

レパートリー
Repertory

Le Nozze di Figaro

オペラバレス | 4回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1786年5月1日／ウィーン／ブルク劇場

作 曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本：ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

プロダクションについて

白と黒のモノトーンを基調とした舞台が話題になったアンドレアス・ホモキのプロダクション。指揮は新国立劇場オペラ公演に度々登場のウルフ・シルマーです。歌手はタイトルロールのアリス・アルギリスほか、世界の一流歌劇場で活躍する若手を集めました。スザンナ役を進境著しい九嶋香奈枝が演じます。ドイツで活躍する松位浩のバルトロにも注目です。そのほか個性的なキャストが紡ぎだすアンサンブルにご期待ください。



2010年公演より

あらすじ

【第1幕】 アルマヴィーヴァ伯爵の召使いフィガロは、伯爵夫人の小間使いスザンナと今日結婚式を挙げる。ところが、スザンナに気がある伯爵は初夜権の復活を企んでいるので、心配でならない。そこに女中頭のマルチェッリーナと医師バルトロが登場。女中頭はフィガロが借金返済できない場合には自分と結婚するという証文を見せ、スザンナと諍いになる。一方、小姓のケルビーノがスザンナの部屋を訪れる。女と見れば恋するケルビーノは伯爵に首にされたためとりなしを頼みに来たのだが、当のスザンナにも言い寄る始末。今度は伯爵がスザンナを口説きに現れる。椅子に隠れていたケルビーノは、伯爵に見つかって軍隊行きを命じられる。

【第2幕】 最近、夫の愛情が冷めていくことを嘆く伯爵夫人の元にスザンナ、フィガロ、ケルビーノが集まる。伯爵の鼻を明かそうと、ケルビーノを女装させて浮気の現場を押さえる計画をするが、うまくいかない。女中頭のマルチェッリーナがフィガロとの結婚を訴え、大騒ぎとなる。

【第3幕】 伯爵夫人はスザンナに、伯爵と逢い引きの約束をするよう命じる。夫人はスザンナになりすまして夫の不実を暴くつもりだ。マルチェッリーナの訴えた裁判が始まるが、途中でフィガロがマルチェッリーナの実の子で父親はバルトロであることが発覚。バルトロとマルチェッリーナも、よりを戻して結婚することになり、親子二組同時の結婚式が賑やかに始まる。スザンナは計画通り伯爵に逢い引きの手紙を渡す。何も知らないフィガロは疑惑でいっぱい。

【第4幕】 暗い庭園でドラマが展開。伯爵はスザンナの衣裳を着た夫人を口説くが、事情がわかって夫人に謝罪する。最後に全員が許し合い、愛を讃え合う。

W.A. モーツァルト

フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus Mozart / Le Nozze di Figaro

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	ウルフ・シルマー
Conductor:	Ulf Schirmer
演出……………	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas Homoki
美術……………	フランク・フィリップ・シュレスマン
Scenery Design	Frank Philipp Schlössmann
衣裳……………	メヒトヒルト・ザイペル
Costume Design	Mechthild Seipel
照明……………	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck Evin
アルマヴィーヴァ伯爵……………	レヴェンテ・モルナール
Il Conte Almaviva	Levente Molnár
伯爵夫人……………	マンディ・フレドリヒ
La Contessa	Mandy Fredrich
フィガロ……………	アリス・アルギリス
Figaro	Aris Argiris
スザンナ……………	九嶋香奈枝
Susanna	Kushima Kanae
ケルビーノ……………	レナ・ベルキナ
Cherubino	Lena Belkina
マルチェリーナ……………	竹本節子
Marcellina	Takemoto Setsuko
バルトロ……………	松位 浩
Bartolo	Matsui Hiroshi
バジリオ……………	大野光彦
Basilio	Ono Mitsuhiko
ドン・クルツィオ……………	糸賀修平
Don Curzio	Itoga Shuhei
アントーニオ……………	志村文彦
Antonio	Shimura Fumihiko
バルバリーナ……………	吉原圭子
Barbarina	Yoshihara Keiko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年10月20日(日) 2:00

26日(土) 2:00

23日(水) 6:30

29日(火) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S:21,000円・A:15,750円・B:10,500円・C:6,300円・D:3,150円

【前売開始】2013年6月8日(土)

フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus Mozart / Le Nozze di Figaro

指揮：ウルフ・シルマー

Conductor : Ulf Schirmer

ドイツのエッセンハウゼン生まれ。ハンブルク音楽大学でホルスト・シュタイン、クリストフ・フォン・ドホナーニ、ジェルジ・リゲティの各氏に師事。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などで指揮。2009年8月より、ライプツィヒ歌劇場の音楽監督を、11年からは同劇場の総監督を兼任している。オペラのみならず、オペレッタ、映画音楽など幅広いレパートリーを持ち、世界各地の著名なオーケストラの指揮者として活躍。若い世代の育成にも力をいれており、ハンブルク演劇アカデミーで音楽分析と音楽ドラマツルギーを教えている。新国立劇場には03年『フィガロの結婚』、04年『エレクトラ』、07年『西部の娘』、10年『アラベッラ』に続き5度目の出演となり、好評を博した『フィガロの結婚』で待望の再登場となる。



演出：アンドレアス・ホモキ

Production : Andreas Homoki



ドイツのマール生まれ。1987年から92年までケルン歌劇場でアシスタント・ディレクターを務める。ジュネーヴ歌劇場1992/1993シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収める。その後、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、バイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、ネザーランド・オペラ『ルル』などヨーロッパを中心に活躍。2002/2003シーズンからベルリン・コーミッシェ・オーバーの首席演出家に就任し、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』『マハゴニー市の興亡』『ハムレット』などを取り上げ話題となった。2012年エクサンプロヴァンス音楽祭でのシャルバンティエ『ダビデとヨナタン』の洗練された演出で好評を博している。2012/2013シーズンからチューリヒ歌劇場総監督に就任。日本では08年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『ばらの騎士』などを手掛けている。新国立劇場では03年『フィガロの結婚』、07年『西部の娘』を演出している。

アルマヴィーヴァ伯爵：レヴェンテ・モルナール

Il Conte Almaviva : Levente Molnár

ルーマニアのトランシルヴァニア生まれ。後にハンガリーに移り14歳から声楽を学ぶ。2003年よりハンガリー国立歌劇場のオペラ・スタジオに所属し、オペラ歌手としてのキャリアをスタート。06年1月同歌劇場に『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでデビュー。その後も『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・バスクワレ』マラテスタ、『道化師』シルヴィオ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『チェネレントラ』ダンディーニ、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロールなどに出演し、レパートリーを広げる。08年『ドン・ジョヴァンニ』マゼットで英国ロイヤルオペラに出演。2009/2010シーズンよりバイエルン州立歌劇場の専属歌手として『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』『蝶々夫人』『カルメル会修道女との対話』『ラ・ボエーム』『ファルスタッフ』などに出演。他にもウィーン国立歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、デンマーク王立歌劇場などに出演している。13年はバイエルン州立歌劇場で『ラインの黄金』ドンナー、『蝶々夫人』シャープレス、『セビリアの理髪師』フィガロのほか、シュトゥットガルト歌劇場『バルジファル』アンフォルタスなどへの出演が決まっている。新国立劇場初登場。



フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus Mozart / Le Nozze di Figaro

伯爵夫人：マンディ・フレドリヒ

La Contessa : Mandy Fredrich

ドイツ、ベルツィヒ生まれ。ベルリン芸術大学ならびにライブツィヒ音楽演劇大学で学ぶ。学生時代にバイエルン州のホーフ劇場にて『魔笛』夜の女王を歌ってオペラデビュー。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、ミラノ・スカラ座、ライプツィヒ歌劇場、エッセン・アールト劇場などに出演。2012年夏に、アーノンクール指揮、ヘルツォーク演出の『魔笛』夜の女王でザルツブルク音楽祭に初登場し、観客の心をつかむ歌唱力が高く評価された。2012/2013シーズンは、既にハンブルク州立歌劇場で『魔笛』夜の女王のほか、グルックの『アウリスのイフィゲニア』タイトルロールでシュトゥットガルト歌劇場にデビュー、今後のさらなる活躍が期待される若手ソプラノ。新国立劇場初登場。



フィガロ：アリス・アルギリス

Figaro : Aris Argiris



ギリシアのアテネ生まれ。アテネ音楽院やミュンヘン音楽大学でサクソフォンや声楽などを学ぶ。1999年よりギリシャ国内の歌劇場に出演。2010年に英国ロイヤルオペラにデビュー。ほかにもベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、モネ劇場などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『愛の妙薬』ベルコーレ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『蝶々夫人』シャープレス、『ラ・ボエーム』マルチェッロとショナール、『オテロ』イアーゴ、『ラインの黄金』ドンナー、『ホフマン物語』バリトン4役など幅広いレパートリーを持つ。2012/2013シーズンは既にブエノスアイレスのコロン劇場『チェネレントラ』ダンディーニ、ベルリン州立歌劇場『椿姫』ジェルモンに出演。13年はボン市立歌劇場の『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵（12年12月～）や、『椿姫』ジェルモン（2月）、モネ劇場『マノン・レスコー』レスコー（1月）、ベルリン州立歌劇場『偽りの女庭師』ナルド（4月）、イスラエル・フィルとの演奏会『オテロ』イアーゴ（7月）などへの出演が予定されている。10年には世界初のオペラ3D映画『カルメン』（英国ロイヤルオペラ公演）に出演し話題を集めた。新国立劇場には12年『ラ・ボエーム』マルチェッロで初登場し、情感溢れる歌唱と生き生きとした演技力で好評を博した。今回の『フィガロの結婚』では、ロールデビューとなるフィガロ役で登場する。

スザンナ：九嶋香奈枝

Susanna : Kushima Kanae

東京藝術大学卒業。卒業時にアカンサス賞を受賞。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノへ留学。第54回全日本学生音楽コンクール大学・一般の部全国1位受賞。HIMSコンクール第1位受賞。2005年にはギリシャ・アテネ新国立劇場オープン記念公演ミハエル・ハンベ演出『魔笛』に招聘され15公演に出演し好評を博す。07年東京二期会公演『魔笛』パパゲーナで出演。新国立劇場では『トスカ』羊飼いの、『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』（演奏会形式）デスピーナ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』森の小鳥、『スペース・トゥーランド』タムタムなど数多く出演。12年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナでは、存在感あるチャーム的な演唱で注目を集めた。二期会会員。



フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus Mozart / Le Nozze di Figaro

ケルビーノ: レナ・ベルキナ

Cherubino : Lena Belkina

ウクライナ出身。キエフとライブツィヒで学ぶ。2012年までライブツィヒ・オペラの専属歌手として『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『イタリアのトルコ人』ザイダなど数多くの作品に出演。12年はデュイスブルク劇場『セビリアの理髪師』ロジーナなどに出演、2012/2013シーズンからウィーン国立歌劇場の専属となり、10月に『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場。今後同歌劇場で、『皇帝ティートの慈悲』アンニオ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『チェネレントラ』アンジェリーナ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ボリス・ゴドゥノフ』フョードルなどに出演予定。新国立劇場初登場。



マルチェリーナ: 竹本節子

Marcellina : Takemoto Setsuko



大阪音楽大学卒業。これまでに『カルメン』タイトルロール、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『チェネレントラ』タイトルロールなどを演じる。マーラー『復活』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍、東京都交響楽団をはじめ、国内の主要オーケストラのソリストとしても出演を重ね、デブリースト、セゲルスタム、ロジェストベンスキーなど、多くの著名な指揮者から確かな実力を認められている。新国立劇場では『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『アンドレア・シェニエ』マデロン／コワニー伯爵夫人、『さまよえるオランダ人』マリー、『神々の黄昏』第一のノルン、『アラベッラ』アデライデなどに出演。2013/2014シーズンは『アラベッラ』アデライデでも出演予定。二期会会員。

バルトロ: 松位 浩

Bartolo : Matsui Hiroshi

大阪音楽大学卒業、同大学院修士課程歌劇専攻を全秀の成績で修了。ベルリン芸術大学在学中よりヴェルツブルク市立劇場、ダルムシュタット州立歌劇場との専属契約を経て、ザールラント州立劇場首席バス歌手として招聘され現在に至る。また2002年ザルツブルク祝祭劇場『トリスタンとイゾルデ』マルケ王で指揮者・演出家のみならず国内外のメディアからも非常に高い評価を得る。『ドン・カルロ』フィリップ二世、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『パルジファル』グルネマンツ、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公など充実したレパートリーを誇り、ヨーロッパで活躍している。10年びわ湖ホール『トリスタンとイゾルデ』マルケ王では存在感のある歌唱で好評を博した。新国立劇場には06年『さまよえるオランダ人』ダーラント、09年『魔笛』ザラストロ、12年『オテロ』ロドヴィーコに出演し高い評価を得、13年4月には再び『魔笛』ザラストロに出演予定。



ホフマン物語

2013.11/28 ~ 12/10

レパートリー
Repertory

Les Contes d'Hoffmann

オペラバレス | 5回公演 | 全5幕〈フランス語上演／字幕付〉

初 演：1881年2月10日／パリ／オペラ・コミック座

作 曲：ジャック・オффエンバック

Jacques Offenbach (1819-1880)

台 本：ジュール・バルビエ、ミッシェル・カレ

Jules Barbier, Michel Carre

プロダクションについて

フィリップ・アルローの演出による幻想的恋物語。〈ホフマンの舟歌〉でお馴染みのオффエンバック唯一のオペラ作品で、コロラトゥーラ・ソプラノ最大の見せ場となるオランピアのアリア〈生け垣に鳥たちが〉なども聴きどころのひとつです。アルローにとって新国立劇場での第1作となった本作品では、ウィットとユーモアにあふれる衣裳や、黒い舞台空間に蛍光色を効果的に使って原作の幻想性を醸し出し、作品に一層の深みをもたらしています。指揮はパリ生まれのフレデリック・シャスラン、ホフマン役にはアルトゥーロ・チャコン=クルスが新国立劇場に初登場します。ホフマンが恋する3人の女性を演じる、幸田浩子、浜田理恵、横山恵子という日本を代表するソプラノの競演にもご期待ください。



2005年公演より

あらすじ

【第1幕（プロローグ）】歌劇場の隣の酒場で、歌姫ステッラを待つホフマンは友人のニクラウス達に、三つの失恋物語を語り始める。

【第2幕】オランピアは科学者スパランツァーニが作った自動人形。人形師コッペリウスに売りつけられた不思議な眼鏡をかけると、その人形が生きているように見え、すっかり夢中になったホフマンは愛を告白。ホフマンと狂ったようにワルツを踊ったあげく、オランピアはコッペリウスに壊されてしまう。ホフマンはこの時初めて、彼女が人形だったことを知る。

【第3幕】楽器職人クレスペルの娘アントニア。名歌手だった母譲りの素養を持っていたが、胸を病み父親から歌うことを禁じられていた。しかし、悪魔のような医者ミラクルが亡き母親の亡霊を呼び寄せ、アントニアに歌うよう誘惑する。歌い続けるアントニアは、ついに死んでしまった。

【第4幕】ヴェネツィアの娼婦ジュリエッタ。彼女は魔術師ダペルトウットからホフマンを誘惑して影を盗めと命じられていた。賭けですべてを失ったホフマンは魂と命と影をジュリエッタに渡してしまう。恋敵シュレーミルと決闘して勝利するが、当のジュリエッタは下僕と駆け落ちする。

【第5幕（エピローグ）】酒場。数奇な愛の遍歴を語り終えたホフマンの元に、歌姫ステッラが現れるが、彼女の崇拜者である上院議員リンドルフと腕を組んで立ち去る。酔いつぶれたホフマンは詩の女神ミューズの幻影を見る。

ジャック・オффエンバック

ホフマン物語

Jacques Offenbach / Les Contes d'Hoffmann

全5幕〈フランス語上演／字幕付〉

指揮……………	フレデリック・シャスラン
Conductor	Frédéric Chaslin
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣裳……………	アンドレア・ウーマン
Costume Design	Andrea Uhmann
振付……………	上田 遙
Choreographer	Ueda Haruka
ホフマン……………	アルトゥーロ・チャコン＝クルス
Hoffmann	Arturo Chacón-Cruz
ニクラウス／ミューズ……………	アンジェラ・ブラウアー
Nicklausse, La Muse	Angela Brower
オランピア……………	幸田浩子
Olympia	Kouda Hiroko
アントニア……………	浜田理恵
Antonia	Hamada Rie
ジュリエッタ……………	横山恵子
Giulietta	Yokoyama Keiko
リンドルフ／コッペリウス／ミラクル博士／ダベルトゥット……………	マーク・S・ドス
Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto	Mark S. Doss
アンドレ／コシュニエ／フランツ／ピティキナッチョ……………	高橋 淳
Andrès, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio	Takahashi Jun
ルーテル／クレスペル……………	大澤 建
Luther, Crespel	Osawa Ken
スパランツァーニ……………	柴山昌宣
Spalanzani	Shibayama Masanobu
シュレーミル……………	青山 貴
Schlemil	Aoyama Takashi
アントニアの母の声／ステッラ……………	山下牧子
La voix de la mere, Stella	Yamashita Makiko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年11月28日(木) 6:30

7日(土) 2:00

12月 1日(日) 2:00

10日(火) 2:00

4日(水) 6:30

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S:21,000円・A:15,750円・B:10,500円・C:6,300円・D:3,150円

【前売開始】2013年7月20日(土)

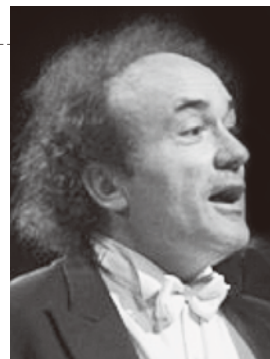
ホフマン物語

Jacques Offenbach / Les Contes d'Hoffmann

指揮：フレデリック・シャスラン

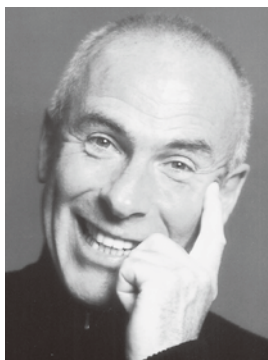
Conductor : Frédéric Chaslin

パリ生まれ。ピアノと指揮を学んだ後、1989年パリとバイロイトでダニエル・バレンボイムのアシスタントとして指揮活動を開始。91年にはパリのアンサンブル・コンテンポランでピエール・ブーレーズのアシスタントを務めた。93年ブレゲンツ音楽祭で国際的デビューを飾る。99年から2002年までウィーン国立歌劇場のレジデンス・コンダクターとして110を超える公演を指揮。その後、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、マドリッドのレアル劇場、バルセロナのリセウ劇場、フェニーチェ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭などに登場。05年からマンハイム州立歌劇場音楽監督、10年からサンタフェ・オペラの音楽監督を務める(13年まで)。『セビリアの理髪師』『椿姫』『トスカ』『アイダ』『ファルスタッフ』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『夢遊病の女』『清教徒』『ニーベルングの指環』『サムソンとデリラ』『ウェルテル』『カルメン』『トロイ人』『ホフマン物語』など幅広いオペラ・レパートリーを誇り、同時に新しい作品の開拓や作曲家としても活躍している。新国立劇場では09年『トスカ』、10年『アンドレア・シェニエ』で好評を博す。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud



パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスブール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリボル劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。さらに05年『アンドレア・シェニエ』に続き2010/2011シーズンオープニングの『アラベッラ』新演出で観客を魅了している。

ホフマン：アルトゥーロ・チャコン＝クルス

Hoffmann : Arturo Chacón-Cruz

メキシコ生まれ。これまでにベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ケルン歌劇場、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ナポリのサン・カルロ歌劇場、ワシントン・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラ、リヨン歌劇場などに出演。『ラ・ボエーム』ロドルフォや『蝶々夫人』ピンカートンを得意とし、ほかにも『リゴレット』マントヴァ公爵、『椿姫』アルフレード、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ウェルテル』タイトルロール、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチオ、『ファウスト』タイトルロールなどのレパートリーを持つ。2012年にはミラノ・スカラ座に『ホフマン物語』タイトルロールでデビューのほか、ボリショイ・オペラ『椿姫』アルフレードに出演した。日本では、10年9月に愛知県芸術文化センターにおけるあいちトリエンナーレ2010『ホフマン物語』タイトルロールを歌っている。新国立劇場初登場。



ホフマン物語

Jacques Offenbach / Les Contes d'Hoffmann

ニクラウス／ミューズ：アンジェラ・ブラウアー

Nicklausse, La Muse : Angela Brower

アメリカ出身。アリゾナ州立大学ならびにインディアナ大学で学ぶ。2008年から09年までバイエルン州立歌劇場のヤング・アンサンブルのメンバーとなり、『ヘンゼルとグレーテル』眠りの精、『ルクレツィア・ボルジア』オルシーニ、『イタリアのトルコ女』ツァイーダなどを歌う。現在、バイエルン州立歌劇場のアンサンブル・メンバー。2011/2012シーズンは、『ホフマン物語』ニクラウス、『ニーベルングの指環』ヴェルグンデ、『パルジファル』花の乙女、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『魔笛』第二の侍女などに出演。2012/2013シーズンは、同歌劇場で『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、ミュンヘン・オペラ・フェスティバルの『ニーベルングの指環』ヴェルグンデで出演。新国立劇場初登場。



オランピア：幸田浩子

Olympia : Kouda Hiroko

東京藝術大学首席卒業。同大学院及び文化庁オペラ研究所修了後ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールで上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリアなど主要な役を演じて活躍後、2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。専属を離れてからも『魔笛』夜の女王などで客演。日本では二期会『ばらの騎士』ゾフィーなど主役級を演じるほか、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、更にはNHK-FM『気ままにクラシック』で4年間パーソナリティを務めるなど多彩な活動を展開。12年10月からはBSフジ『レシピ・アン』にMCとしてレギュラー出演中。新国立劇場には『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェレントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』顕子などに出演している。2013/2014シーズンは『鹿鳴館』顕子にも出演を予定している。二期会会員。HP <http://columbia.jp/koudahiroko/>

アントニア：浜田理恵

Antonia : Hamada Rie

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。パリ留学。91年パリ・シャトレ座にて『アリアーヌと青髭』でオペラデビュー、UFAM主催国際声楽コンクール第1位。92年第19回パリ国際声楽コンクールオペラ部門第1位。パリ・オペラ座で『火刑台上のジャンヌ・ダルク』で聖母マリア、94年『カルメン』のミカエラを歌う。以後フランスで『ラ・ボエーム』ミミ、『蝶々夫人』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ファウスト』『トゥーランドット』などの多くのオペラに出演。97年パリ・シャトレ座にて『北緯60度線』(世界初演)出演。出光音楽賞受賞。99年、2000年、04年びわ湖ホール・プロデュース・オペラのほか、名古屋での新作オペラ『白鳥』、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』タイトルロール、東京文化会館50周年記念オペラ『古事記』などに出演、最近では「スーパー・コーラス・トーキョー特別公演」にソロ出演し絶賛を博した。新国立劇場にはコンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』メリザンド、同年『トゥーランドット』リユー、『カルメン』ミカエラに続いて4回目の登場。2013/2014シーズンは『カルメン』ミカエラにも出演予定。フランス在住。



ホフマン物語

Jacques Offenbach / Les Contes d'Hoffmann

ジュリエッタ: 横山恵子

Giulietta : Yokoyama Keiko

東京音楽大学卒業、同大学研究生修了。ウィーン国立歌劇場宮廷歌手ミリアコヴィッチ女史との出会いを契機に1992年渡欧、同年ドイツ・バイエルン州立コーブルク歌劇場に認められ『ドン・カルロ』エリザベッタでヨーロッパデビューを果たす。その後ドイツを中心にヨーロッパ各地でプッチーニ、ヴェルディ作品のタイトルロールなど数多くの公演に出演、中でも蝶々夫人は高く評価されており、小澤征爾指揮、浅利慶太演出の『蝶々夫人』に東京、大阪、北京で出演。びわ湖ホール・ヴェルディシリーズ『アッティラ』『スティッフエリオ』など、二期会公演『エジプトのヘレナ』（日本初演）のほか、『マノン・レスコー』『オテロ』『二人のフォスカリ』『トゥーランドット』『トスカ』『フルキュレ』『タンホイザー』『ナクソス島のアリアドネ』などのオペラの主要な役に出演し、常に高い評価を得ている。2009年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『トゥーランドット』タイトルロールに出演し絶賛を浴びた。11年3月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『アイダ』にも主演している。新国立劇場には『修禅寺物語』夜叉王の娘かつら、『神々の黄昏』ゲートルーネのほか、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』タイトルロールなどに出演している。東京音楽大学教授。二期会会員。



リンドルフ／コッペリウス／ミラクル博士／ダペルトゥット: マーク・S・ドス

Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto : Mark S. Doss

アメリカ出身。10ヶ国語ももの原語による歌唱をこなし、『カルメン』エスカミーリョ、『サロメ』ヨハナーン、『ルル』シェーン博士／切り裂きジャック、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『トスカ』スカルピア、『ピーター・グライムズ』バルストロード船長など、幅広いレパートリーを誇る。55もの役柄で、これまでにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、パレルモのマッシモ歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラなど、60ヶ所を超える世界各地の歌劇場に出演している。2012/2013シーズンは、トリノ歌劇場で『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョ、セビリアのマエストランツァ歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、ナポリのサン・カルロ歌劇場『さまよえるオランダ人』タイトルロール、サン・ディエゴ・オペラで『アイダ』アモナズロなどの出演が決まっている。1993年にグラミー賞ベストオペラ録音賞を受賞。新国立劇場初登場。



アンドレ／コシュニエ／フランツ／ピチキナッチョ: 高橋 淳

Andrés, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio : Takahashi Jun

東京音楽大学卒業、同大学院及び二期会オペラスタジオオマスタークラス修了。2001年『ホフマン物語』で二期会オペラデビュー後、『イエヌーファ』『魔笛』などに出演。06年には『皇帝ティートの慈悲』（P. コンヴィチニ演出）タイトルロール、08年6月には『ナクソス島のアリアドネ』で、これまでのキャラクターとは一線を画すテノール歌手・バックスを演じ絶賛された。その他、びわ湖ホールや東京二期会公演の『サロメ』ヘロデ王、日生劇場ヤナーチェック『マクロブス家の事』、東京文化会館50周年記念オペラ『古事記』スサノヲなど多くの公演で活躍している。新国立劇場には05年『ルル』アルヴァ、06年『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドでいずれも急遽代役として舞台に立ち、その後も『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『軍人たち』『ラインの黄金』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』など多数出演し、印象的な役作りが評価されている。二期会会員。



2014.1/19 ~ 2/1

カルメン

レパートリー
Repertory

Carmen

オペラバレス | 5回公演 | 全3幕〈フランス語上演／字幕付〉

初 演：1875年3月3日／パリ／オペラ・コミック座

作 曲：ジョルジュ・ビゼー

Georges Bizet (1838-1875)

台 本：アンリ・メイヤック、リュドウィク・アレヴィー

Henri Meilhac, Ludovic Halévy

プロダクションについて

新国立劇場レパートリー、鷗山仁の演出によるプロダクション。今回は2012年からノヴォシビルスク国立歌劇場の音楽監督を務める気鋭の指揮者アイナルス・ルビキスが新国立劇場に初登場します。カルメン役のケティン・ケモクリーゼは、現在注目を集める若手歌手の1人で、歌唱力、容姿、演技力を併せ持つ人気メゾソプラノ。本公演が期待のタイトルロールデビューとなります。ドン・ホセ役のガストン・リベロは同役でローザンヌ国立歌劇場来日公演や、ベルリン・ドイツ・オペラに出演しています。ミカエラは浜田理恵が好評を得た前回の再演に続き出演します。



2010年公演より

あらすじ

【第1幕】セビリアのタバコ工場前の広場。休憩時間となり女達が出てくる。男達も集まるが、彼らの関心の的はカルメン。だが彼女は言い寄る男達には目もくれず、自分に無関心な衛兵のホセに興味を持つ。ホセを訪ねて同郷の娘ミカエラが登場、母親からの便りを渡して立ち去る。工場が騒がしくなり、女工と喧嘩をしたカルメンが引き立てられる。カルメンを護送する役目になったホセだが、彼女の魅力に負けて、カルメンを逃がしてしまう。

【第2幕】郊外の酒場。ジプシーが踊るなか、人気闘牛士エスカミーリョが現れてカルメンに目を留める。密輸団の仲間がやって来て相談を始める。そこへホセが登場。カルメンを逃がした罪で投獄され、やっと自由の身になったのだ。カルメンは彼のために歌い、踊るが、帰営の時間を気にするホセをなじる。そこへ折悪しく上官のスニガが現れて、鉢合わせしたホセと決闘になる。スニガは密輸団に捕らえられ、ホセは仕方なく彼らの仲間に入る。

【第3幕・第1場】岩山にある密輸団の野营地。カルタ占いをやるカルメンは、「何度やっても死ぬと出る!」と叫ぶ。ミカエラが現れ、ホセの母親が危篤だと知らせる。そこにエスカミーリョがカルメンを訪ねてやって来るが、カルメンをめぐってホセと争う。カルメンは二人の間に割って入り、エスカミーリョを助けるが、ホセには、ミカエラと一緒に山を降りよう冷たく言い放つ。

【第3幕・第2場】祭りで賑わうセビリア、闘牛場の前。闘牛士エスカミーリョはカルメンに見送られて場内に入る。女達が、ホセが来ているから注意するように言うがカルメンは取り合わない。やがてホセが現れ、復縁を迫るが冷たく拒否される。逆上したホセは彼女を刺し殺す。

ジョルジュ・ビゼー

カルメン

Georges Bizet / Carmen

全3幕〈フランス語上演／字幕付〉

指揮…………… アイナルス・ルビキス
Conductor Ainars Rubikis

演出…………… 鵜山 仁
Production Uyama Hitoshi

美術…………… 島 次郎
Scenery Design Shima Jiro

衣裳…………… 緒方規矩子
Costume Design Ogata Kikuko

照明…………… 沢田祐二
Lighting Design Sawada Yuji

振付…………… 石井 潤
Choreographer Ishii Jun

カルメン…………… ケテワン・ケモクリーゼ
Carmen Ketevan Kemoklidze

ドン・ホセ…………… ガストン・リベロ
Don José Gaston Rivero

エスカミーリョ…………… ドミトリー・ウリアノフ
Escamillo Dmitry Ulyanov

ミカエラ…………… 浜田理恵
Micaëla Hamada Rie

スニガ…………… 妻屋秀和
Zuniga Tsumaya Hidekazu

モラレス…………… 榎 貴志
Morales Masu Takashi

ダンカイロ…………… 谷 友博
Le Dancaire Tani Tomohiro

レメンダード…………… 大野光彦
Le Remendado Ono Mitsuhiko

フラスキータ…………… 平井香織
Frasquita Hirai Kaori

メルセデス…………… 清水華澄
Mercédès Shimizu Kasumi

合唱…………… 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽…………… 東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2014年1月19日(日) 2:00

29日(水) 6:30

22日(水) 2:00

2月1日(土) 2:00

26日(日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 23,100円・A: 18,900円・B: 12,600円・C: 7,350円・D: 4,200円

【前売開始】2013年9月21日(土)

カルメン

Georges Bizet / Carmen

指揮: アイナルス・ルビキス

Conductor : Ainars Rubikis

ラトヴィアのリガ生まれ。ラトヴィアの若手音楽家の養成で知られるエミール・ダルツィン・スクールでピアノとヴァイオリンを学ぶかたわら、リガ大聖堂合唱団に参加、その後、ジャゼプス・ヴァイトルス・ラトヴィア音楽アカデミーで合唱指揮の学位を取得し、さらにオーケストラ指揮を学ぶ。マリス・ヤンソンスらに師事。ラトヴィア大学室内合唱団芸術監督、ラトヴィア放送合唱団副指揮者などを務め、その間も定期的にラトヴィア国立交響楽団、シンフォニエッタ・リガ、ラトヴィア国立歌劇場管弦楽団、ロッケンハウス音楽祭などに出演。2008年にラトヴィア国立歌劇場の副指揮者に任命され、『ドン・ジョヴァンニ』『魔笛』などを振る。10年に第3回グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝し、注目の若手指揮者として脚光を浴びる。これまでに、ザルツブルク音楽祭、エジンバラ音楽祭、ラトヴィア国立歌劇場などに客演しているほか、各地でオーケストラの指揮をしている。最近では、香港フィルハーモニー管弦楽団、ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団、エジンバラ音楽祭、バンベルク交響楽団、クレメラータ・バルティカ、エストニア国立交響楽団、ブダペスト・フィルなどに登場。今後の予定として、ノヴォシビルスク国立オペラで『エウゲニ・オネーギン』『ラ・ボエーム』『椿姫』『カルメン』『ピーター・グライムズ』などがある。さらに、ボーンマス交響楽団、ハンブルク交響楽団、トロント交響楽団、ナショナル・アーツセンター・オタワ、メルボルン交響楽団などにデビュー予定。新国立劇場初登場。



photo : V.Dmitrieva



演出: 鵜山 仁

Production : Uyama Hitoshi

慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年文学座アトリエ公演『プラハ1975』。以降、精力的な演出活動が続けている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督。1989年、芸術選奨文部大臣新人賞、99年『おばかさんの夕食会』『夢の島イニシュマーン』の演出で、第2回毎日芸術賞千田是也賞、2001年新国立劇場『コペンハーゲン』で紀伊國屋演劇賞個人賞と読売演劇大賞優秀演出家賞、03年『ニュルンベルグ裁判』(ひょうご舞台芸術)などにより読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞、07年『ゆるる車の音』(文学座)などにより読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞、09年『ヘンリー六世』で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。そのほかの主な演出作品に、『グリークス』(第25回紀伊國屋演劇賞団体賞)、『缶詰』(第55回文化庁芸術祭最優秀賞)、『ザ・ウィアー(堰)』(以上文学座)、『雪やこんこん』『父と暮せば』(以上こまつ座)など、またオペラでも数々の話題作を手がけている。新国立劇場では、上記受賞作品『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』のほか、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『イロアセル』『リチャード三世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出している。

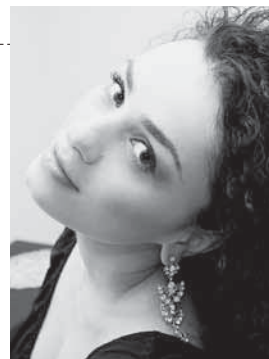
カルメン

Georges Bizet / Carmen

カルメン: ケテワン・ケモクリーゼ

Carmen : Ketevan Kemoklidze

グルジアのトビリシ生まれ。トビリシ国立音楽院とスカラ座アカデミアで学ぶ。ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールを含む様々なコンクールでの受賞歴を持つ。2002年にトビリシで『リゴレット』マッダレーナでオペラデビュー。その後、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』ステファノ、バルセロナのリセウ劇場『オテロ』エミーリア、ミラノ・スカラ座『サロメ』奴隷、『マノン』ジャヴォット、『リゴレット』マッダレーナ、ワシントン・オペラ『セビリアの理髪師』ロジーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、マドリッドのレアル劇場で『フィガロの結婚』ケルビーノ、ベルリン・ドイツ・オペラやパレルモのマッシモ劇場、デュッセルドルフ歌劇場で『セビリアの理髪師』ロジーナ、グラーツ歌劇場『ナブッコ』フェネーナ、『三つのオレンジへの恋』王女クラリーチェ、ヴェローナ野外音楽祭『ロメオとジュリエット』ステファノなど各地で活躍。現在最も注目を集める若手歌手の1人で、確かな歌唱力に加え美しい容姿と演技力を併せ持った実力派。13年はロサンゼルス・オペラ『チェネレントラ』タイトルロールでのデビューが予定されている。新国立劇場初登場。



ドン・ホセ: ガストン・リベロ

Don José : Gaston Rivero

ウルグアイ系アメリカ人。2003年にニューヨークで、バス・ラーマン演出のブロードウェイ・プロダクション『ラ・ボエーム』ロドルフォでオペラデビューを飾る。これまでにニュルンベルク歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、ダルムシュタット州立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、オーストリア・クラゲンフルト劇場『アイーダ』ラダメス、パームビーチ・オペラ『椿姫』アルフレード、ハンガリー国立歌劇場ボイト作曲『ファウスト』メフィストフェレス、ボルドー大劇場『イル・トロヴァトーレ』マンリーコなどを歌っている。『カルメン』ドン・ホセは、08年のローザンヌ国立歌劇場来日公演や、ベルリン・ドイツ・オペラへのデビュー作品として演じている。10年オーストリア・クラゲンフルト劇場『アイーダ』ラダメスのロールデビューで大成功を収めている。13年は1月ライプツヒ・オペラ『ナブッコ』イズマエーレ、4月ブダペスト国立歌劇場『ドン・カルロ』タイトルロール、『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノの出演が予定されている。新国立劇場初登場。



エスカミーリョ: ドミトリー・ウリアノフ

Escamillo : Dmitry Ulyanov

ロシア生まれ。2000年にウラル国立音楽院を卒業し、スタニスラフスキー歌劇場のソリストとして研鑽を積む。09年からはボリショイ・オペラにもゲスト出演。これまでにマドリッドのレアル劇場、セビリアのマエストランツァ劇場、パリ・バスチーユ・オペラ、マルセイユ歌劇場、モンテカルロ歌劇場、テルアビブ・オペラなどに出演。『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『アイーダ』アモナズロ、『マクベス』バンクォー、『リゴレット』スparaフチーレ、『フィデリオ』ロッコ、『ワルキューレ』フンディング、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『ボリス・ゴドゥノフ』ワルラーム、『ヴォツェック』医者など幅広いレパートリーを持ち、今後の活躍が期待されている。新国立劇場初登場。



カルメン

Georges Bizet / Carmen

ミカエラ: 浜田理恵

Micaëla : Hamada Rie

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。パリ留学。91年パリ・シャトレ座にて『アリアーヌと青髭』でオペラデビュー、UFAM主催国際声楽コンクール第1位。92年第19回パリ国際声楽コンクールオペラ部門第1位。パリ・オペラ座で『火刑台上のジャンヌ・ダルク』で聖母マリア、94年『カルメン』のミカエラを歌う。以後フランスで『ラ・ボエーム』ミミ、『蝶々夫人』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ファウスト』『トゥーランドット』などの多くのオペラに出演。97年パリ・シャトレ座にて『北緯60度線』(世界初演)出演。出光音楽賞受賞。99年、2000年、04年びわ湖ホール・プロデュース・オペラのほか、名古屋での新作オペラ『白鳥』、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』タイトルロール、東京文化会館50周年記念オペラ『古事記』などに出演。最近では「スーパー・コーラス・トーキョー特別公演」にソロ出演し絶賛を博した。新国立劇場にはコンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』メリザンド、同年『トゥーランドット』リユー、『カルメン』ミカエラに続いて4回目の登場。2013/2014シーズンは『ホフマン物語』アントニアにも出演予定。フランス在住。



スニガ: 妻屋秀和

Zuniga : Tsumaya Hidekazu



東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライブツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリヤの理髪師』ドン・バジリオに出演。『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉦蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『リゴレット』スバラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵でも出演予定。藤原歌劇団団員。

蝶々夫人

2014.1/30 ~ 2/8

レパトリー
Repertory

Madama Butterfly

オペラバレス | 4回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1904年2月17日／ミラノ／スカラ座（改訂版：1904年5月28日／プレシャ／グランデ劇場）

作 曲：ジャコモ・プッチーニ

Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ルイーダ・イリカ、ジュゼッペ・ジャコーザ Luigi Illica, Giuseppe Giacosa

プロダクションについて

2005年の初演以来、シーズンラインアップに登場するのは5回目となる栗山民也演出の『蝶々夫人』では、舞台奥に星条旗をはためかせて、原作にみる西洋と東洋の主従関係をシンボリックに描いています。指揮は、欧米で活躍する新国立劇場初の女性指揮者ケリー＝リン・ウィルソンです。注目の蝶々さんには、アレクシア・ヴルガリドゥが初登場します。ピンカートンには10年『アンドレア・シェニエ』タイトルロールで高い評価を得たミハイル・アガフォノフ、シャープレスにはウィーン国立歌劇場で活躍を続け、11年にも新国立劇場でシャープレスを演じた甲斐栄次郎が再登場となります。



2011年公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。軍港だった長崎滞在中のアメリカ人海軍士官ピンカートンは、結婚斡旋人ゴローの仲介で「妻」を娶る。対価は100円、契約は999年だが、放棄は自由。一時的な気晴らしのための現地婚で、当時ごく一般的に行われていたが、妻になる芸者の蝶々さんがピンカートンを真剣に愛していると知ったアメリカ領事シャープレスはその行く末を危ぶむ。花嫁姿の蝶々さんが親族一同と現れる。宴席で伯父のボンゾが闖入。結婚のためキリスト教に改宗した蝶々さんをなじり、親族達も彼女に絶縁を言い渡す。

【第2幕】ピンカートンが帰国して3年。蝶々さんは彼との間にできた息子と女中のスズキと暮らしている。夫の帰りを信じる蝶々さんは、ゴローが新しい結婚相手を勧めても耳を貸さない。そこへピンカートンからの手紙を携えて、シャープレスがやって来る。実は縁切り状なのだが、蝶々さんに読んで聞かせることが果たせず、ピンカートンとの間にできた子供に引き合わされて悄然とする。船の入港を告げる大砲の音が響く。夫の船と知って歓喜する蝶々さんは、部屋中に花びらを敷き詰め、婚礼の日の衣裳に着替えて夫を待つ。一夜が明け、待ちくたびた蝶々さんは部屋へ引き取るが、そこへシャープレスに伴われたピンカートンが現れ、スズキが対応する。人の気配を察して現れた蝶々さんはピンカートンの妻ケートの姿を見て、すべてを悟る。子供を引き取りたいというピンカートン夫妻の意思を伝えられ、観念した蝶々さんは、子供に別れを告げ、父の形見の短刀で自害を果たす。

ジャコモ・プッチーニ

蝶々夫人

Giacomo Puccini / Madama Butterfly

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………ケリー＝リン・ウィルソン
Conductor Keri-Lynn Wilson

演出……………栗山民也
Production Kuriyama Tamiya

美術……………島 次郎
Scenery Design Shima Jiro

衣裳……………前田文子
Costume Design Maeda Ayako

照明……………勝柴次朗
Lighting Design Katsushiba Jiro

蝶々夫人…………アレクシア・ヴルガリドゥ
Madama Butterfly Alexia Voulgaridou

ピンカートン…………ミハイル・アガフォノフ
Pinkerton Mikhail Agafonov

シャープレス…………甲斐栄次郎
Sharpless Kai Eijiro

スズキ……………大林智子
Suzuki Obayashi Tomoko

ゴロー……………内山信吾
Goro Uchiyama Shingo

ボンゾ……………志村文彦
Lo zio Bonzo Shimura Fumihiko

ヤマドリ……………小林由樹
Il principe Yamadori Kobayashi Yoshiki

ケート……………小野和歌子
Kate Pinkerton Ono Wakako

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2014年1月30日(木) 7:00

5日(水) 7:00

2月 2日(日) 2:00

8日(土) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S:21,000円・A:15,750円・B:10,500円・C:6,300円・D:3,150円

【前売開始】2013年9月22日(日)

蝶々夫人

Giacomo Puccini / Madama Butterfly

指揮：ケリー＝リン・ウィルソン

Conductor : Keri-Lynn Wilson

カナダのウィニペグ生まれ。ジュリアード音楽院でフルートを学び、21歳でカーネギーホールにデビュー。その後、同音楽院で指揮を学び始め、23歳で指揮者としてデビュー。卒業後、ダラス交響楽団の副指揮者としてキャリアをスタートさせる。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、マリンスキー劇場、ボリショイ劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ローマ歌劇場、オスロのノルウェー国立オペラ、ワシントン・ナショナル・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、ニュー・イスラエル・オペラなど世界各地に出演。『トスカ』『椿姫』『ナブッコ』『シモン・ボッカネグラ』『アイーダ』『オテロ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』『蝶々夫人』などのイタリアオペラを中心に、『スベードの女王』『エウゲニ・オネーギン』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ウェルテル』など幅広いレパートリーを持つ。コンサート指揮者としても活躍。最近では、2012年11月モントリオール・オペラ『さまよえるオランダ人』を指揮し、舞台上の動きへの細やかな配慮や、示唆に富むシャープな指揮さばき、牽引力が高く評価された。日本では、11年MET日本公演でのバーバラ・フリットリのリサイタルを指揮している。13年はニュー・イスラエル・オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』（3月）、チューリヒ歌劇場『椿姫』（5月）などを予定している。新国立劇場初登場。



演出：栗山民也

Production : Kuriyama Tamiya



早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に、『ゴドーを待ちながら』『阿国』『獅子を飼う』『GHETTO / ゲットー』『海の沸点』『エヴァ、帰りのない旅』『太鼓たたいて笛ふいて』『マリー・アントワネット』『私はだれでしょう』『ロマンス』『かもめ』『闇に咲く花』『赤い城 黒い砂』『きらめく星座』『BLACK BIRD』『炎の人』『組曲虐殺』『海をゆく者』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞第1回千田是也賞、第1回朝日舞台芸術賞などを受賞。平成23年には第62回芸術選奨（演劇部門）文部科学大臣賞を受賞している。新国立劇場では『今宵限りは……』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『夢の泪』『涙の谷、銀河の丘』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・胆っ玉とその子供たち』『夢の痂』『CLEANSKINS / きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督を務め、現在は新国立劇場演劇研修所長。

蝶々夫人：アレクシア・ヴルガリドゥ

Madama Butterfly : Alexia Voulgaridou

ギリシアのカバラ生まれ。ミュンヘン音楽大学に学び、プリンツレーゲンテン劇場『フィガロの結婚』スザンナでデビュー、続いてバイエルン州立歌劇場『ばらの騎士』ソフィーに出演し注目を集める。その後、マンハイム州立劇場、ボン市立歌劇場などドイツを中心に活躍。2003年ローマ歌劇場『ファウスト』マルガリータ、ジュネーヴ歌劇場『ラ・ボエーム』ミミなどで大好評を博し、その後ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、バレンシア州立歌劇場などの一流歌劇場に定期的にゲスト出演。レパートリーには、『オテロ』『デズデーモナ』『椿姫』タイトルロール、『シモン・ボッカネグラ』アメリア・グリマルディ、『マノン』タイトルロール、『トスカ』タイトルロール、『トゥーランドット』リュエ、『道化師』ネッダ、『ロミオとジュリエット』ジュリエット、『友人フリッツ』スーゼル、『カルメン』ミカエラ、『フィデリオ』マルツェリーネなどがあり、中でも『ラ・ボエーム』ミミはミラノ・スカラ座、トリエステ・ヴェルディ歌劇場、パレルモ・マッシモ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、マンハイム州立歌劇場などに出演し高く評価されている。12年11月にはハンブルク州立歌劇場の『蝶々夫人』タイトルロール初役を成功裡に収めており、13年には同役でジュネーヴ歌劇場への出演が決まっている。新国立劇場初登場。



蝶々夫人

Giacomo Puccini / Madama Butterfly

ピンカートン: ミハイル・アガフォノフ

Pinkerton : Mikhail Agafonov

モスクワ生まれ。ロシア・パフォーミング・アーツ・アカデミーで学び、1993年にポリショイ劇場の専属歌手として様々なレパートリーを身につける。これまでにウィーン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、リヨン国立歌劇場、スウェーデン王立歌劇場、マンハイム州立歌劇場、トロントのカナディアン・オペラなど世界の一流歌劇場に出演している。『エルナーニ』タイトルロール、『愛の妙薬』ネモリーノ、『リゴレット』マントヴァ公爵、『アイーダ』ラダメス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『トゥーランドット』カラフ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー、『金鶏』占星術師など幅広いレパートリーを誇る。2012年の年末からザクセン州立歌劇場『トスカ』、ヘルシンキのフィンランド国立歌劇場『仮面舞踏会』に出演、13年はアントワープのヴラームゼ・オペラ『ナブッコ』イズマエーレ(2月)、エッセン・アールト劇場で『アイーダ』ラダメスなどが出演予定となっている。新国立劇場には10年『アンドレア・シェニエ』タイトルロールで初登場し絶賛を博した。



シャープレス: 甲斐栄次郎

Sharpless : Kai Eijiro



東京藝術大学卒業、同大学院修了。ニューヨークとボローニャでの研鑽後、2003年よりウィーン国立歌劇場の専属歌手として40演目、300公演を超える公演にソリストとして出演している。『シモン・ボッカネグラ』(T. ハンプソン主演) バオロの代役として急遽出演し、緻密な表現力で存在を深く印象付けた。同役では、L. ヌッチ、P. ドミンゴとも共演している。グルベローヴァとの共演で、歌唱、演技共に高い評価を得た『ロベルト・デヴェリュー』ノッティンガム公爵をはじめ、『ランメルモールのルチア』エンリーコ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『ラ・ファヴォリータ』アルフォンソ11世、『蝶々夫人』シャープレス、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『マノン・レスコー』レスコーなどのイタリアオペラにおいて特に高い評価を得ている。国内では、二期会『フィガロの結婚』フィガロ、小澤征爾音楽塾特別演奏会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、東京文化会館50周年記念オペラ『古事記』イザナギなどに出演。『第九』『ドイツ・レクイエム』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では04年『鳴神』鳴神上人、11年『蝶々夫人』シャープレスに出演している。

スズキ: 大林智子

Suzuki : Obayashi Tomoko

東京藝術大学卒業。同大学院修了。二期会オペラスタジオ第31期修了。1986年日伊声楽コンソルソ入賞。2005年文化庁在外研修員としてドイツ・ミュンヘンに留学。二期会公演『ワルキューレ』グリムゲルデでオペラデビューを果たす。その後『ヘンデルとグレーテル』『神々の黄昏』『修道女アンジェリカ』『蝶々夫人』などに出演。『戴冠ミサ』『第九』などのソリストとしても活躍し、NHK交響楽団定期公演『エレクトラ』などに出演している。新国立劇場には、01年、09年『ラインの黄金』フロスヒルデ、02年、09年『ワルキューレ』ヴァルトラウテ、03年、10年『神々の黄昏』フロスヒルデ、07年『ファルスタッフ』ページ夫人メグ、07年、11年『蝶々夫人』スズキ、11年『鹿鳴館』女中頭草乃など数多く出演。日本人離れた歌唱力と演技力を高く評価されている。二期会会員。



蝶々夫人

Giacomo Puccini / Madama Butterfly

ゴロー: 内山信吾

Goro : Uchiyama Shingo

武蔵野音楽大学、同大学大学院に学ぶ。第36回日伊声楽コンクール入選。グスタフ・クーンの招きでドイツに渡り、ブランシュヴァイク歌劇場と契約、ソリストとして研鑽を重ねる。帰国後『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレード、『蝶々夫人』ピンカートン、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ、『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょうなどに出演。また『第九』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では2003年『ホフマン物語』ナタナエル、04年『椿姫』ガストン子爵、05年『マクベス』マルコム、07年『蝶々夫人』ゴロー、09年『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ジノーヴィー・ポリゾヴィチ・イズマイロフ、09年と12年『オテロ』ロデリーゴのほか、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ゴローなど多くの公演に出演している。



ボンゾ: 志村文彦

Lo zio Bonzo : Shimura Fumihiko



武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第27回日伊コンクール第1位入賞など受賞多数。二期会公演に『ドン・ジョヴァンニ』騎士長でデビュー以来、『コジ・ファン・トゥッテ』『チェネレントラ』『ワルキューレ』『ファルスタッフ』『メリー・ウイドウ』などに出演。新国立劇場では1998年『魔笛』ザラストロ、2002年『ナクソス島のアリアドネ』かつら師、04年『椿姫』医師グランヴィル、05年『蝶々夫人』ボンゾ、05年『ニュルンベルクのマイスタージンガー』夜警、06年『愛怨』隆祥、10年『フィガロの結婚』アントーニオ、02年、11年『サロメ』兵士1、12年『トスカ』堂守など出演を重ねている。二期会会員。

死の都

2014.3/12 ~ 24

新制作
New production

Die tote Stadt

オペラバレス | 5回公演 | 全3幕 (ドイツ語上演 / 字幕付)

初 演：1920年12月4日 / ケルン歌劇場とハンブルク州立歌劇場で同時上演

作 曲：エーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト

Erich Wolfgang Korngold (1897-1957)

原作者：ジョルジュ・ローデンバック

Georges Rodenbach

台 本：パウル・ショット (ユリウス・コルンゴルト、エーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト) Paul Schott (Julius Korngold, Erich Wolfgang Korngold)

プロダクションについて

尾高芸術監督が4シーズン目に選んだ新制作演目の一つがコルンゴルトの『死の都』です。コルンゴルトは時代に翻弄された作曲家でした。1920年23歳でオペラ『死の都』が大成功をおさめますが、その後アメリカへ亡命。そこでハリウッドの映画音楽などを手がけたため、戦後のクラシック音楽界から認められず不遇な晩年を送りました。ドイツでも彼の作品はナチスによって上演を禁じられ、一時は忘れさられました。70年代から欧米でコルンゴルト再評価の動きが徐々に高まり、オペラ、コンサート、録音など数多く取り上げられるようになりました。

本公演はカスパー・ホルテン演出、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)からのプロダクション・レンタルにより上演されます。2012/2013シーズンより英国ロイヤルオペラのディレクターに就任したホルテンは明解な解釈でありながら独特な作風が話題になるなど、気鋭の演出家として世界的に注目されています。指揮は11年『ルサルカ』が大好評を博したヤロスラフ・キズリンクが新国立劇場再登場です。この作品では主役のソプラノとテノールの難しさゆえ、公演頻度が少ないとも言われています。この両役で登場するのは、パウル役トルステン・ケール、マリエッタ／マリー役はミーガン・ミラー。またフランク／フリッツ役にはトーマス・ヨハネス・マイヤーが出演します。

あらすじ

【第1幕】19世紀末、ベルギーの古都ブルージュ。美しい妻マリーを亡くしたパウルは、彼女の遺品に囲まれた「思い出の部屋」に引き籠り、悲しみに耽っている。友人のフランクに「彼女は生きている」と幻想の世界を語り始める。一方、フランクは「死者は戻らないのだから早く立ち直ろう」と忠告するがパウルは耳を貸さない。ある日、パウルは街でマリーに瓜二つの踊り子マリエッタに出会い、家に招待する。ひとりになると、肖像画の中のマリーが動き出してパウルに話しかける。夢と現実の見境がつかなくなった彼はその場にうずくまる。

【第2幕】幻想の中で、パウルはマリエッタを追いブルージュの運河沿いをさまよっている。マリエッタをめぐる、友人フランクとは恋敵になる。月の光にマリエッタが現れ、マイアペーアのオペラ『悪魔ロベール』の尼僧が生き返り、男たちを誘惑する場面を演じる。マリエッタと二人きりになったパウルは、自分が愛するのは亡き妻マリーであって、面影だけ似ている君ではないと伝える。マリエッタは悔しさのあまりパウルを誘惑し、彼はその魅力に陥落してしまう。

【第3幕】翌朝。パウルは、亡き妻と過ごした家でマリエッタと一夜を過ごしたことを後悔している。自分の美しさを誇示するマリエッタは、パウルの敬虔な信仰心を茶化し、故人の遺品に囲まれた生活を嘲笑する。怒ったパウルは、マリーの遺髪を首に巻いて踊るマリエッタを絞め殺してしまう。夢から覚めふと我に返ると、マリエッタの姿はなく、全て幻想だったことに気付く。マリエッタが忘れ物の日傘を取りに立ち寄り、続いて友人フランクが訪れる。パウルは、死者への想いと決別し、友人と共に死の都ブルージュを去る。

E.W. コルンゴルト

死の都

Erich Wolfgang Korngold / Die tote Stadt

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	ヤロスラフ・キズリンク
Conductor	Jaroslav Kyzlink
演出……………	カスパー・ホルテン
Production	Kasper Holten
美術……………	エス・デヴリン
Scenery Design	Es Devlin
衣裳……………	カトリナ・リンゼイ
Costume Design	Katrina Lindsay
照明……………	ヴォルフガング・ゲッベル
Lighting Design	Wolfgang Göbbel
パウル……………	トルステン・ケール
Paul	Torsten Kerl
マリエッタ／マリー……………	ミーガン・ミラー
Marietta/Marie	Meagan Miller
フランク／フリッツ……………	トーマス・ヨハネス・マイヤー
Frank/Fritz	Thomas Johannes Mayer
ブリギッタ……………	山下牧子
Brigitta	Yamashita Makiko
ガストン／ヴィクトリン……………	小原啓楼
Gaston/Victorin	Ohara Keiroh
ユリエッテ……………	平井香織
Juliette	Hirai Kaori
アルバート伯爵……………	糸賀修平
Graf Albert	Itoga Shuhei
リュシエンヌ……………	小野和歌子
Lucienne	Ono Wakako
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

※本公演はフィンランド国立歌劇場（ヘルシンキ）からのプロダクション・レンタルでの上演となります。

2014年3月12日（水）7：00

21日（金・祝）2：00

15日（土）2：00

24日（月）2：00

18日（火）7：00

オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円

【前売開始】2013年10月13日（日）

死の都

Erich Wolfgang Korngold / Die tote Stadt

指揮：ヤロスラフ・キズリンク

Conductor : Jaroslav Kyzlink

チェコのブルノ生まれ。同市のヤナーチェク音楽アカデミーで合唱とオーケストラ指揮を学ぶ。1992年からブルノ国立歌劇場の指揮者。合唱指揮を皮切りに、2001年からは同歌劇場の首席指揮者、01年から03年までは音楽監督を務める。04年スロヴァキア国立劇場の首席指揮者に就任。これまでにウィーン国立歌劇場、プラハ国立歌劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場、ボン市立歌劇場など、ヨーロッパを中心に活躍。ブルノ国立歌劇場のツアーで01年と03年に来日している。09年アテネのギリシャ国立劇場での『ルサルカ』公演での大成功のほか、同郷のヤナーチェクの演奏には特に定評があり、『利口な女狐の物語』『イエヌーファ』『カーチャ・カバノヴァー』のほか、ヤナーチェクのオペラ第1作目の『シャルカ』も振っている。ドヴォルザーク、スメタナ、ヴェルディ、プッチーニ、ロッシニ、ドニゼッティ、モーツァルト、ワーグナーなど幅広いレパートリーを持つ。13年ブルノ国立歌劇場で1月『蝶々夫人』、2月『イエヌーファ』、3月にはプラハ国民劇場『ドン・カルロ』などの指揮を予定。新国立劇場には11年『ルサルカ』で初登場、ドヴォルザークの素朴な民族色やしなやかな美しさを巧みにコントロールした指揮で公演を成功に導いた。



演出：カスパー・ホルテン

Production : Kasper Holten



コペンハーゲン生まれ。2000年から11年までデンマーク王立歌劇場の芸術監督をつとめており、05年の劇場新築時にはコペンハーゲンにおける新オペラハウス誕生の陣頭指揮を執った。今までにデンマーク、スウェーデン、フィンランド、ラトヴィア、アイスランド、フランス、オーストリア、アメリカ、ロシアなど世界各地で60以上のオペラや演劇、オペレッタ、ミュージカルの演出を手掛けている。特に芸術監督時代に手がけた『ニーベルングの指環』（コペンハーゲン・リング）、『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』は世界的に高く評価されDVD化された。今までに11年同劇場での『影のない女』など、数々の優れた新制作を世に送り出している。10年にはモーツァルトの『ドン・ジョヴァンニ』を現代のヨーロッパに置き換えたオペラ映画『Juan』で映画監督デビュー、世界中の映画祭に招かれた。11年秋より、英国ロイヤルオペラのディレクターに就任。13年はノルウェー国立オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』、アン・デア・ウィーン劇場『ベアトリスとベネディクト』、トリノ歌劇場『エウゲニ・オネーギン』などの新制作を手掛ける。新国立劇場初登場。

パウル・トルステン・ケール

Paul : Torsten Kerl

ドイツ生まれ。国際的な活躍で注目を集めるヘルデン・テノール。これまでにウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍。レパートリーは幅広く、主要なワーグナー作品、そして『フィデリオ』フロレスタン、『魔笛』タミーノ、『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレードなどが挙げられる。近年はワーグナー作品を中心に活躍しており、2013年のワーグナーイヤーにはベルリン・ドイツ・オペラ『リエンツィ』タイトルロール（1月）、パリ・オペラ座『ジークフリート』タイトルロール（2月）、『神々の黄昏』ジークフリート（5月）、マンハイム州立歌劇場『パルジファル』タイトルロール、バイロイト音楽祭『タンホイザー』タイトルロールへの出演が予定されている。本作のパウルも重要なレパートリーの1つとして英国ロイヤルオペラやウィーン国立歌劇場などで演じている。新国立劇場は10年『カルメン』ドン・ホセに続き2度目の出演となる。



死の都

Erich Wolfgang Korngold / Die tote Stadt

マリエッタ／マリー：ミーガン・ミラー

Marietta / Marie : Meagan Miller

アメリカ・デラウェア州生まれ。2009年にウィーン・フォルクスオーパー『ナクソス島のアリアドネ』タイトルロールでヨーロッパデビュー。以来、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、エジンバラ音楽祭などに出演。2011/2012シーズンには、『ダフネ』タイトルロールでウィーン国立歌劇場、『ドン・カルロ』エリザベッタでベルリン・ドイツ・オペラにデビュー。さらに、ワシントン・ナショナル・オペラ、ルツェルン音楽祭にも続けてデビュー。今後も世界の一流歌劇場での活躍が期待されている。輝かしい美声が高く評価されており、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナとドンナ・エルヴィーラ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『アルミーダ』タイトルロール、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『オテロ』デズデーモナ、『椿姫』ヴィオレッタ、『西部の娘』ミニー、『ファルスタッフ』フォード夫人、『タンホイザー』エリーザベト、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、R.シュトラウス『ダナエの愛』タイトルロール、『こうもり』ロザリンデと幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場には13年1月『タンホイザー』とヴァルトブルクの歌合戦』エリーザベトで初登場を飾る。



フランク／フリッツ：トーマス・ヨハネス・マイヤー

Frank/Fritz : Thomas Johannes Mayer



ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をリゼロッテ・ハンメスとクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などに出演。『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』『ヴォツェック』タイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナーン、『魔弾の射手』カスパールなどを歌っている。2013年は、パリ・オペラ座『ラインの黄金』(1月)と『ワルキューレ』(2月)ヴォータン、ジュネーヴ歌劇場『ラインの黄金』ヴォータン(3月)、アムステルダム歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン(4月)と『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス(6月)、ライプツィヒ・オペラ『さまよえるオランダ人』タイトルロール(5月)、パイロイト音楽祭『ローエングリン』テルラムント(8月)などの出演が決まっている。新国立劇場には09年『ヴォツェック』タイトルロール、10年『アラベッラ』マンドリカに出演、いずれも大好評を博している。

ブリギッタ：山下牧子

Brigitta : Yamashita Makiko

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽科修了。第1回東京音楽コンクール第1位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロールなどを演じている。新国立劇場では、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』など数多く出演。2013/2014シーズンは『リゴレット』マッダレーナ、『ホフマン物語』アントニアの母の声／ステッラ、『ヴォツェック』マルグレート、『鹿鳴館』女中頭草乃にも出演予定。二期会会員。



死の都

Erich Wolfgang Korngold / Die tote Stadt

ガストン／ヴィクトリン：小原啓楼

Gaston/Victorin : Ohara Keiroh

東京藝術大学声楽科卒業。卒業時に第10回松田トシ賞受賞。同大学院修士課程オペラ科及び、博士号取得。日伊声楽コンクール第3位並びに歌曲賞受賞。オペラでは『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルド、『ナクソス島のアリアドネ』舞踏教師、『こうもり』アルフレート、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『ラ・チェネレントラ』王子ラミーロ、『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』バジリオ、東京二期会公演『蝶々夫人』ピンカートン、『オテロ』カッシオで高い評価を得ている。存在感と華のある美声と演唱で『夕鶴』与ひょう、『愛の妙薬』ネモリーノへの出演へと続く。新国立劇場には2010年『鹿鳴館』久雄、11年『夕鶴』与ひょう、12年『オテロ』カッシオに出演。12年『沈黙』では主役のロドリゴを熱演。その歌唱と演技には惜しめない拍手が贈られた。二期会会員。



フィンランド国立歌劇場『死の都』 ©Stefan Bremer



ヴォツェック

2014.4/5 ~ 13

レパートリー
Repertory

Wozzeck

オペラバレス | 4回公演 | 全3幕 (ドイツ語上演/字幕付)

初 演: 1925年12月14日/ベルリン/国立歌劇場

作曲・台本: アルバン・ベルク Alban Berg (1885-1935)

プロダクションについて

アルバン・ベルクが完成させた唯一のオペラ。2009年にバイエルン州立歌劇場との共同制作によって上演したプロダクションです。シーズンオープニング公演『リゴレット』のアンドレアス・クリーゲンブルクによる演出は、社会に蔓延する貧しさと暴力が世代から世代へと連鎖する様を鋭く描き出しています。指揮はギュンター・ノイホルトです。タイトルロールには国際的に活躍するゲオルク・ニグル。マリーは新国立劇場オペラ公演ではお馴染みのエレナ・ツィトコーワです。



2009年公演より

あらすじ

【第1幕】理髪師から兵士になった実直なヴォツェックは、内縁の妻マリーとの間に一人息子がいるが、貧しい生活を強いられていた。彼は上官の大尉の髭を剃ったり、誇大妄想気味の医者の人体実験のアルバイトで小銭稼ぎをしている。そのためヴォツェックの精神状態は不安定で、不気味な幻覚を見ては妄想に苛まれていた。妻のマリーはヴォツェックとの暮らしに疲れ、猛々しい肉体の持ち主である鼓手長に惹かれ、やがて不倫関係に陥る。

【第2幕】ヴォツェックはある日、耳飾りを手に女性らしく華やいでいるマリーを見て不審を抱く。それは鼓手長からの贈り物だった。やがてヴォツェックの猜疑心は高まり、妻を詰問するがしらを切られ、その場は収まる。やがて居酒屋で鼓手長がマリーと嬉しそうに踊っている現場を押さえたヴォツェック。しかし力では敵わず、袋だたきにされ、痛めつけられる。

【第3幕】信心深いマリーは自分の罪を悔いて神に祈る。だが赤い月が昇る沼のほとりで、錯乱気味のヴォツェックに刺し殺されてしまう。凶器のナイフを捨てて逃げたヴォツェックは、苦しみを紛らわそうと居酒屋で享楽に耽るが、シャツの血痕を見つけれ外に飛び出す。再び沼のほとり。ヴォツェックは証拠のナイフを沼の奥深くに投げ入れようとして溺れ死ぬ。翌朝、マリーの死骸が見つかる。遊んでいた子供達が、マリーの息子に「君のお母さん、死んだよ」と告げて沼へ向かうが、意味が呑み込めない息子は一人遊びに興じている。

アルバン・ベルク

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	ギュンター・ノイホルト
Conductor	Günter Neuhold
演出……………	アンドレアス・クリーゲンブルク
Production	Andreas Kriegenburg
美術……………	ハラルド・トアー
Scenery Design	Harald Thor
衣裳……………	アンドレア・シャラート
Costume Design	Andrea Schraad
照明……………	ステファン・ボリガー
Lighting Design	Stefan Bolliger
ヴォツェック……………	ゲオルク・ニグル
Wozzeck	Georg Nigl
鼓手長……………	ローマン・サドニック
Tambourmajor	Roman Sadnik
アンドレス……………	望月哲也
Andres	Mochizuki Tetsuya
大尉……………	ヴォルフガング・シュミット
Hauptmann	Wolfgang Schmidt
医者……………	妻屋秀和
Doktor	Tsumaya Hidekazu
第一の徒弟職人……………	大澤 建
1. Handwerksbursch	Osawa Ken
第二の徒弟職人……………	萩原 潤
2. Handwerksbursch	Hagiwara Jun
白痴……………	青地英幸
Der Narr	Aochi Hideyuki
マリー……………	エレナ・ツィトコーワ
Marie	Elena Zhidkova
マルグレート……………	山下牧子
Margret	Yamashita Makiko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

[共同制作] バイエルン州立歌劇場

2014年4月5日(土) 2:00

11日(金) 2:00

8日(火) 7:00

13日(日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 23,100円・A: 18,900円・B: 12,600円・C: 7,350円・D: 4,200円

【前売開始】2013年11月23日(土・祝)

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

指揮：ギュンター・ノイホルト

Conductor : Günter Neuhold

オーストリア・グラーツ生まれ。同市で音楽教育を受けた後、ローマでF. フェラーラ、ウィーンでH. スワロフスキーの各氏に師事。1981年から86年までパルマ歌劇場の音楽監督を務める。その後、ロイヤル・フランダース・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼音楽監督、バーデン州立歌劇場の音楽総監督、ブレーメン歌劇場の音楽総監督兼芸術監督などを歴任。現在はスペイン・ビルバオ交響楽団の首席指揮者を務めている。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリッ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、ローマ歌劇場、ボローニャ市立歌劇場、フィラデルフィア・オペラなど各地の歌劇場に出演。ウィーン・フィル、シュターツカペレ・ドレスデンなど世界中の一流オーケストラとも共演しているベテラン指揮者。日本には2011年京都市交響楽団定期演奏会のほか、これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団との共演で来日している。新国立劇場初登場。



演出：アンドレアス・クリーゲンブルク

Production : Andreas Kriegenburg



ドイツのマグデブルク生まれ。ドイツ演劇界の鬼才にして、オペラ界でも斬新な試みによって数々の秀作を生みだしている気鋭の演出家。鋳型製作の技術を学んだ後、建具職人兼技術者としてマグデブルク劇場に勤務。ツィッタウとフランクフルト・アン・デア・オーダーで演出助手と演出家を務め、1991年にベルリンのローザ・ルクセンブルク広場フォルクスビューネの劇場所属の演出家になる。96年からハノーファー州立劇場、99年からはウィーン・ブルク劇場において業績を重ねる。2001年からハンブルク・タリア劇場において演出部責任者を務めた。他にも、ミュンヘン・カンマーシュピーレにおいて数多くの演劇作品を演出している。09年9月、ベルリン・ドイツ座の首席演出家に就任。オペラ演出としては、マグデブルク劇場において、06年に『オルフェオとエウリディーチェ』、07年に『イドメネオ』、10年にベルリン・ドイツ・オペラで『オテロ』、12年にフランクフルト・オペラで『トスカ』を演出。12年夏のミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ニーベルングの指環』新演出は世界が注目する中で大成功を収めた。新国立劇場では2013/2014シーズンオープニング公演『リゴレット』の新演出を手掛ける。

ヴォツェック：ゲオルク・ニグル

Wozzeck : Georg Nigl

オーストリア・ウィーン生まれ。ウィーン少年合唱団屈指のボーイソプラノ・ソリストとして、幼少時より音楽に親しむ。その後、宮廷歌手ヒルデ・ツァデクに声楽を師事。これまでにバリトン歌手としてバイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、モネ劇場、シャンゼリゼ劇場、ボリショイ劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭などに出演。『ヴォツェック』タイトルロール、『ルル』猛獣遣い／力業師、『エウゲニ・オネーギン』ザレツキーのほか、パスカル・デュサパンの『バッション』ルイ、リーム『ディオニソス』タイトルロールなど、特に定評のある現代作品を中心に幅広いレパートリーを持つ。リーム、チェルハ、シャリーノ、エトヴェシュなどの世界初演作品にも数多く出演している。最近では、2012年6月に本プロダクションであるバイエルン州立歌劇場『ヴォツェック』にタイトルロールで出演し、喝采を浴びている。11年9月ルール・トリエンナーレでの細川俊夫『班女』（ビエト新演出）に続き、13年1月にもベルリン州立歌劇場で『班女』吉雄を演じる。新国立劇場初登場。



ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

鼓手長：ローマン・サドニック

Tambourmajor : Roman Sadnik

オーストリア・ウィーン生まれ。演劇の勉強をした後に、音楽を学ぶ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、アムステルダム歌劇場、リヨン歌劇場、ライプツィヒ・オペラ、アン・デア・ウィーン劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ウィーン芸術週間など、主要な歌劇場や音楽祭に出演。『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『オテロ』タイトルロール、『アイーダ』ラダメス、『道化師』カニオ、『タンホイザー』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムント、『ナクソス島のアリアドネ』バカス、『サロメ』ヘロデ、『魔弾の射手』マックス、『フィデリオ』フロレスタンなどに加え、『イエヌーファ』ラカ、『スベードの女王』ゲルマンなどスラヴ系の作品に至る幅広いレパートリーを持つ。最近では、プレーメン歌劇場『タンホイザー』タイトルロール、ミラノ・スカラ座『影のない女』バラクの兄弟のほか、2012年6月バイエルン州立歌劇場および7月のオペラフェスティバルで本プロダクション『ヴォツェック』鼓手長に出演している。13年は、ボルドー国立歌劇場『サロメ』ヘロデ(3月)、マゲデブルク歌劇場『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどに出演が決まっている。新国立劇場初登場。



アンドレス：望月哲也

Andres : Mochizuki Tetsuya



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽科修士課程オペラ科修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。大学院在学中にNTTドコモより奨学金を授与。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽。第35回日伊音楽コンクール第3位入賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位入賞。第70回日本音楽コンクール第2位入賞(オペラ・アリア部門)。『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』『椿姫』『愛の妙薬』『セビリアの理髪師』などに出演。近年は『ボッペアの戴冠』『デイドとエネアス』『エウリディーチェ』や『ナクソス島のアリアドネ』『サロメ』『エジプトのヘレナ』などに出演。2008年ポーランド・レグニツァ市立劇場『魔笛』タミーノでヨーロッパデビュー。東京二期会『皇帝ティートの慈悲』タイトルロールにおける歌唱・演技は記憶に残る。その後も『カプリッチョ』若き音楽家フラマン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオとレパートリーを広げる。新国立劇場では『アラベッタ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手などに出演を重ね、12年10月『ピーター・グライムズ』ホレス・アダマスでは持ち前の美声を駆使して公演の成功に貢献した。13年1月『タンホイザー』ヴァルター、4月『魔笛』タミーノ、6月『夜叉ヶ池』晁と出演が続く。二期会会員。

大尉：ヴォルフガング・シュミット

Hauptmann : Wolfgang Schmidt

ドイツ・ベルリン生まれ。『サロメ』ヘロデをはじめ、ワーグナー作品を主なレパートリーとして、ザクセン州立歌劇場を中心に、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン州立歌劇場、バイロイト音楽祭などで活躍。レパートリーには『タンホイザー』タイトルロール、『ニーベルングの指環』ジークフリートとミーメ、『ヴォツェック』鼓手長、大尉、『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー公、『モーゼとアロン』アロン、『ピーター・グライムズ』タイトルロールなどがある。近年はウィーン国立歌劇場『ラインの黄金』『ジークフリート』ミーメ、デュッセルドルフ歌劇場『サロメ』ヘロデや『エレクトラ』エギストなどに出演。また2008年には本プロダクションのバイエルン州立歌劇場における初演『ヴォツェック』に同役で出演、その後もミュンヘン・オペラフェスティバルを含め再演の度に出演している。13年はデュイスブルク歌劇場『サロメ』ヘロデに出演予定。新国立劇場には02年、08年『サロメ』ヘロデ、10年『ジークフリート』ミーメに出演している。



ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

医者：妻屋秀和

Doktor : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』ドン・バジリオに出演。『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉦蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『リゴレット』スバラフチーレ、『カルメン』スニガ、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵でも出演予定。藤原歌劇団団員。



マリ：エレナ・ツィトコワ

Marie : Elena Zhidkova

ロシア出身。ゲッツ・フリードリヒに見出されベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、以来ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『青ひげ公の城』ユディットなどを歌っている。13年はマンハイム州立歌劇場『パルジファル』クンドリー（3月）、デュッセルドルフ歌劇場『タンホイザー』ヴェーヌスに出演予定。新国立劇場には2003年『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場後、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエ ガラ公演などに出演、豊かな声量と美しい舞台姿で多くのファンを獲得している。2012/2013シーズンは1月の『タンホイザー』とヴァルトブルクの歌合戦』ヴェーヌスに出演。

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

2014.5/14～30

新制作
New production

Cavalleria Rusticana / I Pagliacci

オペラバレス | 6回公演〈イタリア語上演／字幕付〉

【カヴァレリア・ルスティカーナ／Cavalleria Rusticana】

初 演：1890年5月17日／ローマ／コスタンツィ劇場

作 曲：ピエトロ・マスカーニ

Pietro Mascagni (1863-1945)

台 本：ジョヴァンニ・タルジオーニ・トッツェッティ、グイド・メナーシ

Giovanni Targioni-Tozzetti, Guido Menasci

【道化師／I Pagliacci】

初 演：1892年5月21日／ミラノ／ダル・ヴェルメ劇場

作曲・台本：ルッジェーロ・レオンカヴァッロ

Ruggiero Leoncavallo (1857-1919)

プロダクションについて

ジルベール・デフロ演出によるヴェリズモ・オペラの傑作、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』の新制作上演です。いずれも完成度の高いこの二作品は世界中のオペラハウスのレパートリーとなっています。指揮は新国立劇場でも実績のあるレナート・パルンボ。『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥには、新国立劇場オペラ公演に数多く出演しているヴァルテル・フラッカーロ、そしてサントゥッツァにはルクレシア・ガルシアが初登場します。『道化師』カニオは初登場となるグスターヴォ・ポルタ、トニオは2011年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵で凜とした舞台姿で好評を博したヴィットリオ・ヴィテッリが演じます。

あらすじ

●カヴァレリア・ルスティカーナ

復活祭の朝、シチリアのとある田舎町の広場。サントゥッツァは、居酒屋を営むルチアに彼女の息子トゥリッドゥから冷たくされていることを嘆いている。サントゥッツァは、恋人のトゥリッドゥが荷馬車屋の妻ローラと密会していることに気づいていた。サントゥッツァはルチアに、トゥリッドゥは彼が兵役に行く前からローラと恋仲だったこと、戻った時にローラはアルフィオと結婚していたこと、それを忘れるために自分と深い仲になったが、ローラと再びやりが戻ったのだと訴える。ルチアが教会のミサへと立ち去ると、恋人トゥリッドゥが現れ、サントゥッツァは彼の裏切りを責めたてる。そこにローラが通りかかり、トゥリッドゥは彼女について教会の中に入って行ってしまう。激しい嫉妬にかられるサントゥッツァ。入れ違いに現れたアルフィオに、彼の妻ローラの不貞を密告する。アルフィオは怒りに燃え、復讐を誓う。ミサが終わり教会から出てきたトゥリッドゥはローラを連れてルチアの居酒屋へ。酒盛りが進むなか、アルフィオが店に入ってくる。トゥリッドゥが差し出したグラスをアルフィオは拒絶する。すべてを察したトゥリッドゥはアルフィオの耳を噛む。シチリアでの決闘申し込みの流儀だ。トゥリッドゥは、死を予感してか「もしも自分が戻らなかったらサントゥッツァをよろしく頼む」と母に告げる。胸騒ぎを覚えるルチアとサントゥッツァ。やがて遠くで人々の騒ぎ声が聞こえ、女の絶叫が届いた。「トゥリッドゥが殺された!」

●道化師

【プロローグ】 道化師のトニオが現れ「道化の衣裳を着けた役者も人間。喜びも悲しみも感じることは普通の人々と何ら変わることはないのです」と口上を述べる。

【第1幕】 南イタリア。町に馴染みの旅芝居の一座がやって来る。一座は座長のカニオとその妻で女優のネッダ、身体の不自由な道化のトニオ、役者のペッペという構成。トニオはネッダに惹かれているが、まったく相手にされない。この町にはネッダの若い愛人シルヴィオがいた。二人が駆け落ちの相談をしているのを陰で見ていたトニオは、嫉妬深い座長カニオに密会を知らせる。激昂するカニオは妻に浮気相手は誰かとナイフで脅かすが、口を割らない。トニオはカニオに、ネッダの恋人は芝居を見に来るので、夜まで待つよう入れ知恵をする。カニオは逆上しながらも道化芝居を演じなければならない自分の境遇を嘆きながら、化粧をして衣裳を着ける。

【第2幕】 芝居小屋に人々が集まる。芝居はイタリアの古典仮面喜劇で、ネッダは浮気な人妻コロンビーナ、ペッペは浮気相手の二枚目アルレッキーノ、夫カニオはコロンビーナの亭主の道化師パリアッチョ、トニオは間抜けなタッデオという配役。パリアッチョの留守に恋人アルレッキーノと逢い引きするコロンビーナ。恋人同士はパリアッチョを毒殺する計画を立てている……。パリアッチョに扮して妻の浮気を詰問するうち、カニオは次第に現実と芝居の区別がつかなくなる。何も知らない観客は迫真の演技に拍手喝采。ネッダの台詞に逆上したカニオはナイフで彼女を刺し殺し、絶命寸前に舞台に飛び出したシルヴィオも刺してしまう。カニオは「喜劇は終わった」と叫ぶ。

ピエトロ・マスカーニ／ルッジェーロ・レオンカヴァッロ

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni "Cavalleria Rusticana" / Ruggero Leoncavallo "I Pagliacci"

〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	レナート・パルンボ
Conductor	Renato Palumbo
演出……………	ジルベール・デフロ
Production	Gilbert Deflo
美術・衣裳……………	ウィリアム・オルランディ
Scenery & Costume Design	William Orlandi
照明……………	ロベルト・ヴェントウーリ
Lighting Design	Roberto Venturi

【カヴァレリア・ルスティカーナ／Cavalleria Rusticana】

サントウツァ……………	ルクレシア・ガルシア
Santuzza	Lucrecia Garcia
ローラ……………	谷口睦美
Lola	Taniguchi Mutsumi
トゥリッドウ……………	ヴァルテル・フラッカーロ
Turiddu	Walter Fraccaro
アルフィオ……………	成田博之
Alfio	Narita Hiroyuki
ルチア……………	森山京子
Lucia	Moriyama Kyoko

【道化師／I Pagliacci】

カニオ……………	グスターヴォ・ポルタ
Canio	Gustavo Porta
ネッダ……………	ラケーレ・スターニシ
Nedda	Rachele Stanisci
トニオ……………	ヴィットリオ・ヴィテッリ
Tonio	Vittorio Vitelli
ペッペ……………	吉田浩之
Peppe	Yoshida Hiroyuki
シルヴィオ……………	与那城 敬
Silvio	Yonashiro Kei

合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Tokyo
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年5月14日(水) 7:00	24日(土) 2:00
17日(土) 2:00	27日(火) 2:00
21日(水) 7:00	30日(金) 2:00
オペラパレス	

【チケット料金(税込)】

S: 26,250円・A: 21,000円・B: 14,700円・C: 8,400円・D: 5,250円

【前売開始】2014年1月18日(土)

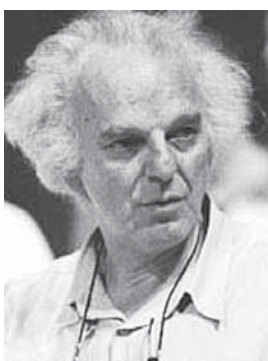
カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

指揮：レナート・パルンボ

Conductor : Renato Palumbo

イタリア・モンテベッルーナ出身。ピアノ、指揮、作曲などを学んだ後、18歳の時『イル・トロヴァトーレ』で指揮デビューし、ボン、ケルンなどで指揮者としてのキャリアを積む。1989年から94年までイスタンブール・オペラ音楽監督、93年から98年までケープタウン歌劇場首席指揮者、2006年から09年までベルリン・ドイツ・オペラの音楽監督などを務める。2000年シカゴ・リリック・オペラ『アッティラ』でアメリカデビュー、02年には『ルクレティア・ボルジア』でミラノ・スカラ座に、『椿姫』でウィーン国立歌劇場にそれぞれデビュー。そのほか、ミラノ・スカラ座、トリノ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ロッシーニ音楽祭、ワシントン・オペラ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ニース歌劇場、バルセロナのリセウ劇場、ビルバオ歌劇場など世界各地で指揮している。イタリア・オペラを得意とし、レパートリーは特に定評のある『ナブッコ』『アイーダ』『運命の力』などヴェルディ作品のほか、ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、モーツァルト、ビゼー、オッフェンバック、ウェバー、ワーグナーに至るまで幅広い。新国立劇場では1999年『リゴレット』、2005年『蝶々夫人』を指揮している。



演出：ジルベール・デフロ

Production : Gilbert Deflo

ベルギーのフランドル地方生まれ。ブリュッセルで学んだ後、ミラノ・ピッコロ・テアトロで、ジョルジョ・ストレーレルに師事、現在まで通じる芸術的原点となる。フランクフルトでの『3つのオレンジへの恋』演出を皮切りに、『ボリス・ゴドゥノフ』『セビリアの理髪師』、ハンブルクでの『ル・グラン・マカーブル』、ウェルシュ・ナショナル・オペラでの『影のない女』などを演出。その後、モンテヴェルディからツェムリンスキー『夢見るゲルゲ』に至るまで、150作品ものオペラ演出を手掛けてきた。ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、チューリッヒ歌劇場、ヴェローナ野外劇場など、世界の歌劇場を舞台に、著名な指揮者やすぐれた美術・衣裳デザイナーと活躍。2009年はパリ・オペラ座で『仮面舞踏会』、バルセロナのリセウ歌劇場で『イル・トロヴァトーレ』（オヴィエド歌劇場、トゥールーズ歌劇場の共同制作）、11年チューリッヒ歌劇場『リゴレット』などを演出。新国立劇場では11年3月『マノン・レスコー』が震災のため初日を目前にして公演中止となったため、待望の初プロダクションとなる。

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

【カヴァレリア・ルスティカーナ/ Cavalleria Rusticana】

サントウツァ：ルクレシア・ガルシア

Santuzza : Lucrecia Garcia

ベネズエラ出身。ヴァイオリニストとして活動した後に声楽を学び始める。1998年にスペインに移り、A. クラウスとT. ベルガンサに師事。その後数多くのコンサートに出演して研鑽を積む。2001年に『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージでオペラデビュー。スペイン各地、シアトル・オペラ、アテネ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、フランクフルト・オペラなどに出演している。最近では12年7月に『アッティラ』オダベッサでサンフランシスコ・オペラにデビュー、その後ヴェローナ野外音楽祭『アイーダ』タイトルロール、パレルモ『二人のフォスカリ』ルクレツィア・コンタリーニなどに出演。13年の予定としては、ベルリン州立歌劇場（2月）とバリ・オペラ座（9月）で『アイーダ』タイトルロールのほか、フランクフルト・オペラ『仮面舞踏会』、ミラノ・スカラ座『ナブッコ』アビガイルと『マクベス』マクベス夫人、アン・デア・ウィーン劇場『アッティラ』オダベッサなどがある。新国立劇場初登場。



トゥリッドウ：ヴァルテル・フラッカーロ

Turiddu : Walter Fraccaro

イタリア・カステルフランコ生まれ。1994年にバルセロナのリセウ劇場『ナブッコ』でオペラデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、マドリッドのレアル劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界各地の歌劇場に出演。現在、世界最高のドラマティック・テノールとして『アイーダ』ラダメス、『仮面舞踏会』リッカルド、『ナブッコ』イズマエーレ、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『オテロ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『カルメン』ドン・ホセ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウなど幅広いレパートリーを誇る。最近ではサンティアゴ・テアトロ・ムニシパル『アッティラ』フォレスト、メトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』カラフなどに出演。2013年は、ニース歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン（3月）、サンディエゴ・オペラ『アイーダ』ラダメス（8月）などの出演が決まっている。新国立劇場には03年『アイーダ』ラダメス、08年『トゥーランドット』カラフ、11年『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、12年『オテロ』タイトルロールに出演し豊かな声量と輝かしい高音で観客を魅了した。

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

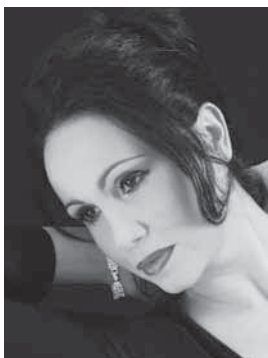
Pietro Mascagni “Cavalleria Rusticana” / Ruggero Leoncavallo “I Pagliacci”

【道化師／I Pagliacci】

カニオ: グスターヴォ・ポルタ

Canio : Gustavo Porta

アルゼンチンのコルドバ生まれ。1996年にブエノスアイレスのコロン劇場でデビュー。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ・オペラ、フランクフルト・オペラ、パレルモのマッシモ歌劇場、マドリードのレアル劇場、スウェーデン王立歌劇場などに出演。『アイーダ』ラダメス、『ナブッコ』イズマエーレ、『仮面舞踏会』リッカルド、『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『マノン・レスコー』デ・グリュー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥ、『愛の妙薬』ネモリーノ、『アンドレア・シェニエ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセなどをレパートリーとする。2012年は、『道化師』カニオでウィーン国立歌劇場デビュー、ライプツィヒ・オペラ『マクベス』マクダフ、『トスカ』カヴァラドッシでライン・ドイツ・オペラ（デュッセルドルフ／デュイスブルク歌劇場）などに出演。13年は、デュッセルドルフ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ（2月）、ニュー・イスラエル・オペラ『オテロ』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場には11年3月『マノン・レスコー』デ・グリューで出演を予定していたが東日本大震災により公演中止となったため、今回が待望の初登場となる。



ネッダ: ラケーレ・スターニシ

Nedda : Rachele Stanisci

イタリア・プリンディシ生まれ。数々のコンクールでの優勝によりロンバルディア歌劇場『ラ・ボエーム』ミミとムゼッタ、『トルコのイタリヤ女』フィオリッラで出演し好評を博す。その後も『道化師』ネッダ、『ファルスタッフ』フォード夫人アリーチェ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタなどを歌う。2000年から『ドン・カルロ』エリザベッタ、『アイーダ』タイトルロール、『アッティラ』オダベッラ、『ナブッコ』アビガイル、『ルイザ・ミラー』タイトルロール、『ノルマ』タイトルロール、『ファウスト』マルグリット、『マノン・レスコー』タイトルロール、『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』ミカエラなど、ドラマチックな役柄にまでレパートリーを広げる。これまでにバイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト・オペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、フェニーチェ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、バルセロナのリセウ劇場などに出演。最近では11年3月ヴェローナ歌劇場『イリス』タイトルロール、アテネ国立歌劇場、10月『マノン・レスコー』タイトルロールなどに出演。13年はヴェローナ野外音楽祭『アッティラ』に出演予定。新国立劇場初登場。

トニオ: ヴィットリオ・ヴィテッリ

Tonio : Vittorio Vitelli

イタリアのアスコリ・ピッチェーノ生まれ。1996年にプラシド・ドミンゴ・オペラリア声楽コンクールにおいて優勝後、国際的なキャリアをスタート。プッチーニ、ヴェルディを主なレパートリーとしてフェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ニース歌劇場、マドリードのレアル劇場、ワシントン・オペラ、ウィーンのクラングボーゲン音楽祭、マチェラータ音楽祭などヨーロッパを中心に活躍。『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『マノン・レスコー』レスコー、『アイーダ』アモナズロ、『オテロ』イアーゴ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『椿姫』ジェルモン、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『道化師』トニオなど幅広いレパートリーを持ち、一流指揮者や演出家との共演を重ねている。最近ではライプツィヒ・オペラ『リゴレット』タイトルロール、マルセイユ歌劇場でドニゼッティの『ポリウト』セヴェーロ、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場『マクベス』タイトルロールなどに出演。2014年にはリセウ歌劇場『トスカ』（新制作）スカルピアなどが予定されている。新国立劇場には11年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵で初登場、艶のある美声と存在感ある舞台姿で客席を魅了した。



2014.5/22 ~ 6/3

アラベッラ

レパートリー
Repertory

Arabella

オペラバレス | 5回公演 | 全3幕 (ドイツ語上演/字幕付)

初 演：1933年7月1日/ドレスデン/宮廷歌劇場

作 曲：リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss (1864-1949)

台 本：フーゴ・フォン・ホフマンスタール Hugo von Hofmannsthal

プロダクションについて

『アラベッラ』で始まり、『アラベッラ』で終わる。2010年就任第1シーズンのオープニングを飾った思い出の作品を最終シーズンにぜひ再演したい、という尾高芸術監督の選んだ演目です。“誰もが最後は微笑んでしまう”この作品、舞台は300種類もの“青”で満たされた“光の魔術師”アルローの演出です。指揮はウィーン国立歌劇場などで活躍するベルトラン・ド・ビリーが新国立劇場初登場。11年『こうもり』ロザリンデを演じたアンナ・ガブラーがタイトルロール、ドラマティック・バリトンとして評判のヴォルフガング・コッホがマンドリカ、ズデンカは歌唱、演技、容姿の三拍子が揃ったアニヤ＝ニーナ・バーマン、マッテオにはリリック・テノールのスティーヴ・ダヴィスリムなど、充実したキャスティングが実現しました。



2010年公演より

あらすじ

【第1幕】19世紀末のウィーン。退役軍人のヴァルトナー伯爵は、賭博好きが高じて借金まみれとなり、一家は破産寸前。迷信深い妻のアデライデは占いの予言にすがるばかりである。伯爵には年頃の二人の娘、長女アラベッラと妹のズデンカがいたが、経済的理由から妹は男装させられ、世間に対してはズデンコという名の「弟」にさせられている。美貌のアラベッラには求婚者が後を絶たないが、長女を玉の輿に乗せようと望む両親の願いに叶う裕福な男は現れない。士官のマッテオも彼女に夢中だが、完全な片思い。ズデンカはマッテオに同情し、姉の筆跡を真似て何通もの色よい恋文を書いているうちに、ズデンカ自身がマッテオに熱い恋心を抱くようになる。マッテオは手紙の中のアラベッラと現実の冷淡な対応とのギャップに苦しむ。そこへ裕福な大地主マンドリカが現れる。

【第2幕】謝肉祭の最後の夜の舞踏会に現れたアラベッラにマンドリカは求婚。二人はすぐに運命的な結びつきを確信する。失恋を悟って自殺しかねないマッテオを救いたい一心で、ズデンカは姉の部屋の鍵だと偽って自分の部屋の鍵をマッテオに渡す。これを立ち聞きしたマンドリカは、アラベッラに裏切られたと怒りを爆発させる。

【第3幕】彼女と愛を交わしたと思い込んでいるマッテオに、本物のアラベッラは冷淡な対応で、マッテオは困惑を深める。マンドリカはアラベッラの不貞を責め、両親は侮辱に憤り、事態は混乱を極める。そこでズデンカが真実を告白。彼女の男装の秘密が明かされ、縁談を危うくさせた誤解も解け、ズデンカはマッテオと、アラベッラはマンドリカと結ばれる。

リヒャルト・シュトラウス

アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指 揮……………	ベルトラン・ド・ビリー
Conductor	Bertrand de Billy
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣 装……………	森 英恵
Costume Design	Mori Hanae
ヴァルトナー伯爵……………	妻屋秀和
Graf Waldner	Tsumaya Hidekazu
アデライデ……………	竹本節子
Adelaide	Takemoto Setsuko
アラベッラ……………	アンナ・ガブラー
Arabella	Anna Gabler
ズデンカ……………	アニヤ＝ニーナ・バーマン
Zdenka	Anja-Nina Bahrmann
マンドリカ……………	ヴォルフガング・コッホ
Mandryka	Wolfgang Koch
マッテオ……………	スティーヴ・ダヴィスリム
Matteo	Steve Davislim
エレメル伯爵……………	望月哲也
Graf Elemer	Mochizuki Tetsuya
ドミニク伯爵……………	萩原 潤
Graf Dominik	Hagiwara Jun
ラモラル伯爵……………	大久保光哉
Graf Lamoral	Okubo Mitsuya
フィアッカミッリ……………	安井陽子
Die Fiaker-Milli	Yasui Yoko
カルタ占い……………	与田朝子
Eine Kartenaufschlägerin	Yoda Asako
合 唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年5月22日(木) 6:30

31日(土) 2:00

25日(日) 2:00

6月3日(火) 2:00

28日(水) 6:30

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S:26,250円・A:21,000円・B:14,700円・C:8,400円・D:5,250円

【前売開始】2014年1月25日(土)

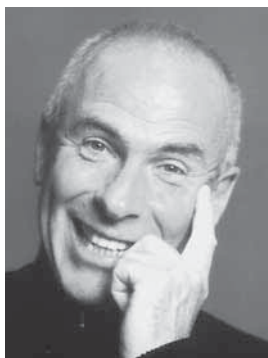
アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

指揮：ベルトラン・ド・ビリー

Conductor : Bertrand de Billy

パリ生まれ。同市で音楽を学び、オーケストラ奏者としてキャリアを積んだ後、指揮に転向。1993年から95年までデッサウのアンハルト劇場で、96年から98年までウィーン・フォルクスオーバーでいずれも第一カペルマイスター（劇場専属指揮者）兼音楽監督代理、99年から2004年までバルセロナのリセウ劇場の音楽監督、02年から10年までウィーン放送交響楽団の音楽監督を歴任。バッハから現代作品にいたるまで幅広いレパートリーを誇り、特にオペラを得意とするため、これまでにウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、ワシントン歌劇場、ロサンゼルス・オペラなど世界中の一流歌劇場に出演している。1997年から定期的にメトロポリタン歌劇場に客演指揮者として招かれている。2002年からはザルツブルク音楽祭にも出演。また世界各地でオーケストラ指揮者としても活躍し、CDやDVDも数多くリリースされている。12年はウィーン国立歌劇場で『椿姫』『フィデリオ』『タンホイザー』『オテロ』を指揮。13年にはフランクフルト・オペラ『ローエングリン』（3月）、ウィーン国立歌劇場『ウェルテル』（4月）、『カルメン』（5月）、バイエルン州立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』（6月）、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ナクソス島のアリアドネ』などが予定されている。日本では07年ウィーン放送交響楽団公演で初来日、12年2月にはNHK交響楽団定期公演に出演し好評を博している。新国立劇場初登場。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスブール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリボル劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。さらに05年『アンドレア・シェニエ』に続き2010/2011シーズンオープニングの『アラベッラ』新演出で再登場し観客を魅了した。2013/2014シーズンには、今回の再演のほかに『ホフマン物語』が8年ぶりに上演される。

アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

ヴァルトナー伯爵：妻屋秀和

Graf Waldner : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』『ドン・バジリオ』に出演。『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉦蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『リゴレット』スバラフチーレ、『カルメン』スニガ、『ヴォツェック』医者でも出演予定。藤原歌劇団団員。



アデライデ：竹本節子

Adelaide : Takemoto Setsuko



大阪音楽大学卒業。これまでに『カルメン』タイトルロール、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『チェネレントラ』タイトルロールなどを演じる。マラー『復活』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍、東京都交響楽団をはじめ、国内の主要オーケストラのソリストとしても出演を重ね、デブリースト、セゲルスタム、ロジェストベンスキーなど、多くの著名な指揮者から確かな実力を認められている。新国立劇場では『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『アンドレア・シェニエ』マデロン／コワニー伯爵夫人、『さまよえるオランダ人』マリー、『神々の黄昏』第一のノルン、『アラベッラ』アデライデなどに出演。2013/2014シーズンは『フィガロの結婚』マルチェリーナでも出演予定。二期会会員。

アラベッラ：アンナ・ガブラー

Arabella : Anna Gabler

ミュンヘン生まれ。ミュンヘン音楽大学在学中にバイエルン州立歌劇場のヤング・アーティスト・プログラムのメンバーとなる。2001/2002シーズンから3年間ライン・ドイツ・オペラ、2005/2006シーズンから3年間ニュルンベルク歌劇場の専属として研鑽を積む一方で、バイエルン州立歌劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』第一の侍女などに出演。2006年にはドレスデン州立歌劇場にカタリーナ・タールバッハ演出の新制作『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルでデビュー、08年『魔弾の射手』アガーテ、09年のヒンデミット『カルディヤック』（新制作）にも出演。バイロイト音楽祭には07年以降『ワルキューレ』オルトリンデで出演、09年にはバイロイト音楽祭の新企画であることも向け作品『さまよえるオランダ人』でゼンタを演じた。パリ・シャトレ座『声によこそ』ノルマの亡霊、モネ劇場『エレクトラ』第五の侍女など、ヨーロッパを中心に活躍。11年のグライントボーン音楽祭には『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、ハンブルク州立歌劇場『神々の黄昏』グートルーネ、フランクフルト・オペラ『恋愛禁制』マリアンナなどに出演。13年はボローニャ歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ（3月）、ハンブルク州立歌劇場『ラインの黄金』グートルーネ（6月）、ザルツブルク音楽祭『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファに出演予定。新国立劇場には11年『こうもり』ロザリンデで初登場、舞踏会シーンでは美しい舞台姿と演技力、歌唱力で観衆を魅了した。



アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

ズデンカ: アニヤ＝ニーナ・バーマン

Zdenka : Anja-Nina Bahrmann

ドイツ・ジークブルク生まれ。デュッセルドルフ大学で学ぶ。2006年エッセン・アールト劇場『バ스티アンとバスティエヌ』でオペラデビューを果たすなど、学生時代からライン・ドイツ・オペラとエッセン・アールト劇場に出演。06年から09年までリッピン州立歌劇場の専属歌手として、『オルフェオ』エウリディーチェ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『仮面舞踏会』オスカル、『フィガロの結婚』スザンナ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなどに出演。09年にウィーン・フォルクスオーパーの専属となり、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『こもり』アデーレ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』パミーナ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェなどに出演、確かな歌唱力に加え、演技力、美しい舞台姿で好評を博す。10年には『ルクリーシアの陵辱』、11年にグラインドボーン音楽祭に『ルサルカ』第一の森の精でデビュー。12年にはミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ボンテの王ミトリダーテ』アスパジアでデビュー後、バイエルン州立歌劇場『ドン・パスカルレ』ノリーナに出演。13年にはウィーン・フォルクスオーパー『セビリアの理髪師』ロジーナ(1月)に出演。新国立劇場初登場。



マンドリカ: ヴォルフガング・コッホ

Mandryka : Wolfgang Koch

ドイツ・ニュルンベルク生まれ。ミュンヘン音楽大学で声楽を学ぶ。ベルン市立歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手としてキャリアを積む。2006年にフランクフルト歌劇場で『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックスで好評を博し、同歌劇場ではその後ライマン『リア王』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、プフィッツナーの『パレストリーナ』枢機卿ボロメオなどに出演。08年にはハンス・ザックスでウィーン国立歌劇場にデビューし、その後も『ローエングリン』テルラムント、『サロメ』ヨハナーンなどを歌っている。他にもハンブルク州立歌劇場やバイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラで『ニーベルングの指環』アルベリヒ、ザルツブルク音楽祭で『影のない女』バラクなどに出演。ワーグナーイヤーである13年はドレスデンのザクセン州立歌劇場『ローエングリン』テルラムント(1月)、ローマ歌劇場『ラインの黄金』ヴォータン(2月)、ザルツブルク・イースター音楽祭『バルジファル』アンフォルタスとクリングゾール、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ジークフリート』アルベリヒ、バイロイト音楽祭『ニーベルングの指環』ヴォータンなど、数多くのワーグナー作品に出演が予定されている。新国立劇場初登場。



マッテオ: スティーヴ・ダヴィスリム

Matteo : Steve Davislim

オーストラリア出身。ホルンを学んだ後、ヴィクトリア・カレッジ・オブ・アーツで声楽を学ぶ。チューリヒ歌劇場の専属歌手としてキャリアをスタート。これまでにベルリン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ウィーン国立歌劇場『魔笛』タミーノ、ドレスデンのザクセン州立歌劇場『放蕩者のなりゆき』トム、ハンブルク州立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵と『放蕩者のなりゆき』トム、ミラノ・スカラ座『イドメネオ』タイトルロールと『魔笛』タミーノ、英国ロイヤルオペラ『ファルスタッフ』フェントン、パリ・シャトレ座『オペロン』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場『後宮からの誘拐』ペドリロ、オーストラリア・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオと『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィットなど世界各地に出演。最近では、ジュネーヴ歌劇場でマルティヌーの『ジュリエット』ミシェル、ザクセン州立歌劇場『皇帝ティートの慈悲』タイトルロールなどに出演。2013年はザクセン州立歌劇場『皇帝ティートの慈悲』タイトルロール(2月)、バーゼル・オペラ『イドメネオ』タイトルロール(4月)などに出演が予定されている。新国立劇場初登場。



アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

フィアッカミッリ: 安井陽子

Die Fiaker-Milli : Yasui Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究課修了。二期会オペラスタジオ修了。その後文化庁在外研修員としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学研究課声乐科を修了。オーストリア在住中、クラゲンフルト劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダでヨーロッパデビュー。その後、フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクトベルテン音楽祭のオフエンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。いずれの公演も高い評価を得た。2008年東京二期会公演『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタで国内本格デビュー、コロラトゥーラの見事な歌唱と豊かな音楽表現で一躍注目を浴びる。『魔笛』夜の女王では新国立劇場をはじめ日生劇場、東京二期会オペラ劇場などで高度なテクニックを披露し存在感を示した。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子に出演し好評を博したほか、11年4月『ばらの騎士』でカヴァーとしてキャストイングされていたゾフィーで急遽本公演に立ち、見事な歌唱で喝采を浴びた。13年4月に『魔笛』夜の女王で再登場する。二期会会員。



鹿鳴館

2014.6/19 ~ 22

レパートリー
Repertory

Rokumeikan

中劇場 | 4回公演 | 全4幕〈日本語上演／字幕付〉

初 演：2010年6月24日／東京／新国立劇場（中劇場）

作 曲：池辺晋一郎 Ikebe Shinichiro (1943-)

原 作：三島由紀夫 Mishima Yukio

上演台本：鶴山 仁 Uyama Hitoshi

プロダクションについて

三島由紀夫の文学と、池辺晋一郎の豊饒な音楽の融和によって生み出されたオペラ。演出の鶴山仁が三島戯曲の美文調そのままに上演台本を作成。“オペラは演劇のひとつのジャンルであり総合的なエンタテインメントであるべき”と考える作曲家によって美しい旋律と巧みなオーケストレーションで作品は描き出されています。物語は、明治維新を舞台に繰り広げられる父子や男女の心理を緻密に描いた愛憎劇。クライマックスの舞踏会シーンでは社会に潜む民衆の怒りや、外国人の嘲笑の的となった表面的な文明開化をあからさまに揶揄する演出など、近代化の光と影を表現しています。指揮は新国立劇場初登場の飯森範親、ソリストには、黒田博、大倉由紀枝ほか日本オペラの中枢を担うソリストが名を連ねます。



2010年公演より

あらすじ

明治19年11月3日、天長節。明治政府によって建てられ、西欧化の象徴と称された鹿鳴館で、欧化政策の中核にあった影山伯爵主催による舞踏会が行われようとしていた。元芸者であった影山の妻の朝子は、夫にすら心を開かず、和装を貫き公の場にその美しい姿を現さない。朝子は、友人である大徳寺侯爵夫人季子からその娘頭子の恋人について相談を持ちかけられる。青年の名前は清原久雄。その晩、鹿鳴館の舞踏会に乱入し、影山伯爵の暗殺を企てているという。これを聞き愕然とする朝子。久雄は、新橋の芸者時代に恋仲にあった反政府派のリーダー清原との間に産まれた子だった。朝子は、自分を母と知らぬ久雄を呼び寄せ、舞踏会への乱入を思いとどまるよう言い聞かせるうちに、感極まって自分が母親であると打ち明ける。しかし、驚いたことに久雄のねらいは影山伯爵ではなく、父親である清原永之輔の殺害だと知る。我が子久雄と未だ愛するかつての恋人清原の両方を助けるために、奔走する朝子。腹心の女中頭草乃の手引きで清原と密会し、反政府自由党残党の乱入計画の中止を約束させ、自らの信条を曲げて夜会の主催者として出席すると宣言する。朝子の安堵もつかの間、影山と刺客の密談を立ち聞き、清原永之輔暗殺計画の首謀者が影山であることを知る。影山は、久雄の父親への憎しみを利用して政敵清原を襲わせようとしていた。運命の夜、朝子は意を決し舞踏会へ出席する。流血の惨事は回避できたはずの鹿鳴館周辺で、銃声が響く。影山と密通する草乃におびき出された清原が、馬車に近づいてきた人影を息子とは知らずに撃ち殺してしまったのだ。清原は、舞踏会に現れ、乱入事件の真相を明らかにすると、朝子に別れを告げて姿を消す。遠くで再び銃声が響く。

池辺晋一郎

鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

全4幕〈日本語上演／字幕付〉

原 作……………三島由紀夫
Original by Mishima Yukio
指 揮……………飯森範親
Conductor Imori Norichika
上演台本……………鵜山 仁
Libretto Adaptation by Uyama Hitoshi
演 出……………鵜山 仁
Production Uyama Hitoshi
作 曲……………池辺晋一郎
Music by Ikebe Shinichiro
美 術……………島 次郎
Scenery Design Shima Jiro
衣 裳……………前田文子
Costume Design Maeda Ayako
照 明……………沢田祐二
Lighting Design Sawada Yuji
振 付……………上田 遙
Choreographer Ueda Haruka

影山悠敏伯爵……………	〈6月19・21日〉 黒田 博 Kuroda Hiroshi	〈6月20・22日〉 与那城 敬 Yonashiro Kei
Count Kageyama Hisatoshi		
同夫人 朝子……………	大倉由紀枝 Okura Yukie	腰越満美 Koshigoe Mami
Countess Asako, his wife		
大徳寺侯爵夫人 季子……………	手嶋眞佐子 Teshima Masako	谷口睦美 Taniguchi Mutsumi
Marchioness Daitokuji Sueko		
その娘 顕子……………	高橋薫子 Takahashi Nobuko	幸田浩子 Kouda Hiroko
Her daughter, Akiko		
清原永之輔……………	星野 淳 Hoshino Jun	宮本益光 Miyamoto Masumitsu
Kiyohara Einosuke		
その息子 久雄……………	経種廉彦 Idane Yasuhiko	鈴木 准 Suzuki Jun
His son, Hisao		
女中頭 草乃……………	山下牧子 Yamashita Makiko	小野和歌子 Ono Wakako
Kusano, a maid of the Kageyamas		
宮村陸軍大将夫人 則子……………	鵜木絵里 (全日) Unoki Eri	
General Miyamura's wife, Noriko		

合 唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年6月19日(木) 6:30 21日(土) 2:00
20日(金) 6:30 22日(日) 2:00
中劇場

【チケット料金(税込)】

S: 15,750円・A: 12,600円・B: 8,400円・C: 6,300円・D: 3,150円

【前売開始】2014年3月1日(土)

鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

指揮：飯森範親

Conductor : Iimori Norichika

桐朋学園大学指揮科卒業後、ベルリンへ留学。89年からバイエルン州立歌劇場でW. サヴァリッシュ氏のもと研鑽を積む。94年東京交響楽団の専属指揮者に就任。96年には東京交響楽団創立50周年記念ヨーロッパツアーを指揮、特にミュンヘン公演は南ドイツ新聞で「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。94年、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者（～98年）に就任。95年から大阪のザ・カレッジ・オペラハウスを本拠とするオペラハウス管弦楽団の常任指揮者、2001年から首席指揮者、02年には名誉指揮者の称号を受ける。1995～2002年3月広島交響楽団正指揮者。04年シーズンより山形交響楽団の常任指揮者に着任し、オーケストラの活動発展と水準の向上に目覚ましい成果を挙げる。07年より音楽監督に就任。08年にはアカデミー賞映画「おくりびと」に「飯森&山響」コンビで出演。オーケストラとの活動を通し地域活性化に大きく貢献し、10年のビジネス・イノベーション・アワード大賞を受賞した。05年渡邊暁雄音楽基金音楽賞を受賞。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞など受賞多数。東京交響楽団と07年にヘンツェの『ルプバ』日本初演や、09年ヤナーチェク『ブrouček氏の旅行』でセンセーショナルな成功を収めた。01年にドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽総監督に就任。現在、山形交響楽団音楽監督、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。海外ではフランクフルト放送交響楽団、ケルン放送交響楽団、チェコフィルハーモニー管弦楽団、モスクワ放送交響楽団、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、バーゼル交響楽団、プラハ交響楽団など世界的なオーケストラを指揮するほか、ドルトムント歌劇場などにも客演。新国立劇場初登場。



演出：鵜山 仁

Production : Uyama Hitoshi

慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年文学座アトリエ公演『ブラハ1975』。以降、精力的な演出活動が続いている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督。89年、芸術選奨文部大臣新人賞、1999年『おばさんの夕食会』『夢の島イニシュマーン』の演出で、第2回毎日芸術賞千田是也賞、2001年新国立劇場『コペンハーゲン』で紀伊國屋演劇賞個人賞と読売演劇大賞優秀演出家賞、03年『ニュルンベルグ裁判』（ひょうご舞台芸術）などにより読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞、07年『ゆるる車の音』（文学座）などにより読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞、09年『ヘンリー六世』で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。そのほかの主な演出作品に、『グリークス』（第25回紀伊國屋演劇賞団体賞）、『缶詰』（第55回文化庁芸術祭最優秀賞）、『ザ・ウィアー（堰）』（以上文学座）、『雪やこんこん』『父と暮せば』（以上こまつ座）など、またオペラでも数々の話題作を手がけている。新国立劇場では、上記受賞作品『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』のほか、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『イロアセル』『リチャード三世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出している。

鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

影山悠敏伯爵：黒田 博

Count Kageyama Hisatoshi : Kuroda Hiroshi

京都市立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。1989年よりミラノへ留学。92年『ラ・ボエム』シヨナルで二期会デビュー。以後モーツァルトの四大オペラや新国立劇場『天守物語』『こうもり』『ナクソス島のアリアドネ』『忠臣蔵』などに出演。二期会創立50周年記念公演『ニュルンベルグのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、日生劇場開場40周年記念公演『ルル』ではシェーン博士と切り裂きジャックの二役を演じる。新国立劇場『俊寛』、東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』にそれぞれタイトルロールで主演。2006年東京二期会『フィガロの結婚』ではアルマヴィーヴァ伯爵で舞台を牽引。その後も新国立劇場への出演や東京二期会『エウゲニ・オネーギン』タイトルロールなど大役が続き、10年新国立劇場『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、11年には東京二期会・ラインドイツオペラ共同制作『ドン・ジョヴァンニ』に主演、12年びわ湖ホールと神奈川県民ホールにおいて、アメリカ・サンディエゴ歌劇場との提携公演として、ワーグナー『タンホイザー』ヴォルフラムにも出演。常に聴衆の期待を裏切らない逸材である。新国立劇場での主演も数多く、2012/2013シーズンは『夜叉ヶ池』学円に出演予定。03年度京都市芸術新人賞受賞。国立音楽大学准教授。二期会会員。



影山悠敏伯爵：与那城 敬

Count Kageyama Hisatoshi : Yonashiro Kei



桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。大学卒業後才能を認められ声楽に転向、同大学研究科声楽専攻修了。二期会オペラ研修所第46期本科修了。修了時に奨励賞を受賞。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、中田喜直賞受賞。マリオ・デル・モナコ国際声楽コンクール（イタリア・マルサラ）第3位（1位なし）入賞。2006年、東京二期会公演『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『エウゲニ・オネーギン』オネーギンに抜擢される。09年横須賀芸術劇場オペラ：バーセル『ダイドーとイニーアス』イニーアス、09年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『トゥーランドット』、佐渡裕プロデュース『カルメン』など活躍が続く。10年は「NHKニューイヤーオペラコンサート」に初出演を果たす。最近では二期会創立60周年記念公演『メディア』メディアの夫イヤソンに出演し好評を博す。13年2月にファースト・アルバムをリリース予定。新国立劇場には10年の『愛の妙薬』ベルコレで際立つ存在感を示した。また『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『沈黙』フェレイラ、『ドン・ジョヴァンニ』（演奏会形式）などに出演している。二期会会員。

影山伯爵夫人 朝子：大倉由紀枝

Countess Asako : Okura Yukie

国立音楽大学卒業。東京藝術大学大学院修了。第13回民音コンクール第1位受賞。イタリアに留学後、『カプレッティ家とモンテッキ家』ジュリエッタでデビュー。これまで『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルデリージ、小澤征爾指揮『ホフマン物語』ソプラノの四役、『魔笛』パミーナなどに主演し高い評価を得ている。また、1990年二期会創立40周年記念公演『お蝶夫人』ではタイトルロールを演じる。93年二期会公演『シモン・ボッカネグラ』アメリア、95年『黒船』で主役お吉を演じる。2002年二期会創立50周年記念公演『フィガロの結婚』伯爵夫人、同年二期会＝ケルン市立歌劇場共同制作『ばらの騎士』の元師夫人と、相次いでR.シュトラウスの大役を演じた。コンサート活動でも著名な指揮者やオーケストラと数多く共演している。新国立劇場では1998年と2003年『アラベッラ』タイトルロール、10年『鹿鳴館』影山伯爵夫人朝子に出演、艶やかな演唱で喝采を浴びた。二期会会員。



鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

影山伯爵夫人 朝子：腰越満美

Countess Asako : Koshigoe Mami

東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。二期会オペラスタジオ第35期修了。修了時最優秀賞及び川崎静子賞受賞。文化庁オペラ研修所第9期修了。文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアに留学。1995年フェルッチョ・タリアヴィーニ国際コンクール第1位。これまで東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』『ドンナ・エルヴィーラ』『フィガロの結婚』伯爵夫人、『メリー・ウイダー』『ハンナ』『天国と地獄』ユーリディスなど数々のオペラに出演。2005年中米・コスタリカでの『蝶々夫人』タイトルロールで熱狂的な成功を収め、地元各紙から絶賛された。華のある舞台姿と柔軟な音楽性でオペレッタでも活躍している。新国立劇場には開場記念公演『建・TAKERU』夏乃に始まり、『マノン』プセット、『リゴレット』チェブラーノ伯爵夫人、『忠臣蔵』綾衣、『ドン・ジョヴァンニ』『ドンナ・エルヴィーラ』『黒船 一夜明け』お吉、『鹿鳴館』影山伯爵夫人朝子、『夕鶴』つうなど多くの公演に出演し、常に高い評価を得ている。二期会会員。



顕子：高橋薫子

Akiko : Takahashi Nobuko



国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。田島好一氏に師事。第23回ジロー・オペラ賞新人賞、第26回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞など受賞多数。1991年から93年まで五島記念文化財団の奨学生としてミラノに留学。90年藤原歌劇団公演『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナで本格的オペラデビュー。2001年チョン・ミョンフン指揮『魔弾の射手』、02年東京室内歌劇場ブーランク作曲『声』、07年『アルチーナ』にも出演。最近では09年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『トゥーランドット』リユー、藤原歌劇団公演『愛の妙薬』アディーナ、10年『タンクレーディ』アメナイーデ、12年『夢遊病の女』アミーナ、びわ湖ホール・バーゼル歌劇場共同制作沼尻竜典オペラセレクション『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナなどに出演し歌唱力と演技力を高く評価されている。新国立劇場には1998年『魔笛』パパゲーナで初登場、2000年と01年、08年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、02年『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、12年には初の日本オペラ『沈黙』オハルに出演した。藤原歌劇団団員。

顕子：幸田浩子

Akiko : Kouda Hiroko

東京藝術大学首席卒業。同大学院及び文化庁オペラ研修所修了後ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールで上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティトの慈悲』セルヴィーリアなど主要な役を演じて活躍後、2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。専属を離れてからも『魔笛』夜の女王などで客演。日本では二期会『ばらの騎士』ゾフィーなど主役級を演じる他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、更にはNHK・FM「気ままにクラシック」で4年間パーソナリティを務めるなど多彩な活動を展開。12年10月からはBSフジ「レシピ・アン」にMCとしてレギュラー出演中。新国立劇場には『ナクスス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』顕子などに出演している。2013/2014シーズンは『ホフマン物語』オランピアにも出演を予定している。二期会会員。HP <http://columbia.jp/koudahiroko/>



鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

清原久雄：経種廉彦

Hisao : Idane Yasuhiko

東京藝術大学声楽科卒業。同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。1988年イタリア声楽コンクールにおいて金賞を受賞。91年より文化庁芸術家在外研修員としてミラノに留学。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『ファルスタッフ』フェントン、『椿姫』アルフレード、『祝い歌が流れる夜に』中川義男、『夕鶴』与ひょうなどを演じる。また96年ニッセイ・オペラシリーズ若杉弘指揮『火刑台上のジャンヌ・ダルク』裁判官、東京二期会『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドなど精力的に出演を重ね、大舞台で存在感を示している。新国立劇場には、開場記念公演『ローエングリン』ブラバントの貴族、『アラベッラ』マッテオ、『サロメ』5人のユダヤ人1、『愛怨』大野浄人、『イドメネオ』アルバーチェ、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『トゥーランドット』パン、『修禅寺物語』かえでの婿春彦、『鹿鳴館』清原久雄、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチのほか、小劇場オペラ『アブ・ハッサン』タイトルロール、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』タイトルロールなど数多く出演している。二期会会員。



清原久雄：鈴木 准

Hisao : Suzuki Jun



北星学園大学文学部卒業。東京藝術大学声楽科卒業。卒業時、松田トシ賞並びにアカンサス音楽賞受賞。同大学大学院修士課程修了、博士号取得。2010年度に同大学の特別研究員としてイギリスに留学。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、一柳慧『愛の白夜』（新作初演）ヨーニスなどに出演。『マタイ受難曲』のエヴァンゲリストなどでも活躍。イギリスのバロック以前の作曲家や、ドイツ・ロマン派の作曲家の声楽アンサンブル作品にも積極的に取り組み、演奏会に多く出演。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして国内外の公演にも参加している。12年ベンジャミン・ブリテン『カーリヤー・リヴァー』狂女役を、ロンドンとオーフォードの教会で演じ国際的評価を得た。澄み切ったリリック・テノールとして好評を博している。新国立劇場には、『イル・トロヴァトーレ』ルイス、『沈黙』モキチ、演奏会形式の『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドと『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオに出演している。2012/2013シーズンは1月の『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』ハインリヒに出演。二期会会員。

｜ 平成 25 年度公演 ｜

〈3 演目 10 公演〉

2013.7

平成 25 年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ

6 回公演 オペラパレス

2013.10

平成 25 年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

夕鶴

YUZURU | 團伊玖磨

2 回公演 尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール

2013.7

平成 25 年度 新国立劇場 地域招聘公演 びわ湖ホール

三文オペラ

Die Dreigroschenoper | K. ワイル

2 回公演 中劇場

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた本物の芸術を鑑賞する機会として平成10年度より毎年開催しています。高校生に対して、作品を短くしたり解説を差し挟んだりすることなく、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくという新国立劇場独自のコンセプトは、大変ご好評をいただいております。毎年、来場者の8割以上がオペラ鑑賞初体験、7割が作品のタイトルすら知らないというアンケート結果ですが、舞台の幕が開くとぞわついた劇場内はたちまち静まりかえり、ドラマティックなストーリー展開と情熱的な音楽にあふれるオペラを体感しています。平成20年度からは新たに関西公演がスタート、3年連続で『蝶々夫人』を、平成23年度・24年度は『愛の妙薬』を上演しました。

1年間で東京公演、関西公演あわせて1万3千人を超す高校生が“本物の舞台芸術”である新国立劇場のオペラ鑑賞教室でオペラデビューを果たしています。

上演演目は、学校へのアンケートなどを元に本企画に最適と思われるオペラを検討しています。これまでに上演した作品には、『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』『カヴァレリア・ルスティカーナ』『椿姫』『ラ・ボエーム』と、錚々たるオペラの名作が並んでいます。平成24年度(2012年)は、東京で『ラ・ボエーム』が鑑賞教室公演に初登場、多くの涙を誘いました。また関西では、23年度の『愛の妙薬』から大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏で上演しています。

愛の妙薬

L'elisir d'amore

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

プロダクションについて

ベルカント・オペラの代表作のひとつ、ドニゼッティの『愛の妙薬』を2009年に新制作上演しました。この公演は、2012/2013シーズンラインアップにも組み入れられており、平成23年度から2年連続で高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演でも上演しています。チャーザレ・リエヴィ演出の色鮮やかな舞台です。



2012年 高校生のためのオペラ鑑賞教室公演より

あらすじ

【第1幕】バスク地方の農村。純朴なネモリーノは農場主の娘アディーナに恋をしていた。本好きのアディーナは、『トリスタンとイゾルデ』の物語を村人に読み聞かせ、こんな風に瞬く間に恋に落ちる惚れ薬があったらいいわね、と笑っている。そこへ軍曹ベルコーレがやって来てアディーナに求愛するが、彼女もまんざらではない様子。ネモリーノも彼女に告白するが相手にされない。怪しげな薬売りドゥルカマーラが村にやって来て、万病の特効薬の口上を始める。ネモリーノが“イゾルデ姫の惚れ薬”を買いたいと頼むと、ドゥルカマーラはただのワインを“愛の妙薬”と偽って売りつける。ネモリーノは明日には効果が表れると告げられた薬を飲み、酔って陽気になる。アディーナがネモリーノの態度に気分を損ねていると、ベルコーレが再び現れて「軍隊の出発命令が届いたので今日中に結婚しよう」と求婚。承諾するアディーナにネモリーノは（薬の効果が出るまで）一日だけ待つてほしいと訴え、嘲笑される。

【第2幕】アディーナとベルコーレの結婚祝宴。公証人がやって来るがアディーナはサインをためらう。一方ネモリーノはもう一瓶愛の妙薬を買う代金ほしさに入隊を志願する。そんな時、ネモリーノに莫大な遺産が転がり込んだという噂が流れ、村の娘達が色めき立つ。ネモリーノは娘達に突然ちやほやされたのは薬の効力と勘違い。やがてアディーナは「ネモリーノは愛の媚薬を買うために兵隊に入った」とドゥルカマーラに教えられ、彼の入隊契約書を買戻す。二人はお互いの気持ちを告白して永遠の愛を誓う。村を去っていく薬売りドゥルカマーラを、一同が賑やかに見送る。

G.ドニゼッティ

愛の妙薬

Gaetano Donizetti / L'elisir d'amore

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………城谷正博
Conductor Joya Masahiro

演出……………チェーザレ・リエヴィ
Production Cesare Lievi

美術……………ルイジ・ペーレゴ
Scenery Design Luigi Perego

衣裳……………マリーナ・ルクサルド
Costume Design Marina Luxardo

照明……………立田雄士
Lighting Design Tatsuta Yuji

	〈7月10・12・16日〉	〈7月11・13・17日〉
アディーナ ……………	高橋薫子	光岡暁恵
Adina	Takahashi Nobuko	Mitsuoka Akie

ネモリーノ……………	村上敏明	大槻孝志
Nemorino	Murakami Toshiaki	Otsuki Takashi

ベルコーレ ……………	成田博之	与那城 敬
Belcore	Narita Hiroyuki	Yonashiro Kei

ドゥルカマーラ ……………	鹿野由之	久保田真澄
Dulcamara	Shikano Yoshiyuki	Kubota Masumi

ジャンネッタ ……………	九嶋香奈枝	三宅理恵
Giannetta	Kushima Kanae	Miyake Rie

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年7月10日(水) 1:00	13日(土) 1:00
11日(木) 1:00	16日(火) 1:00
12日(金) 1:00	17日(水) 1:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

全席指定: 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般・大人)

夕鶴

YUZURU

尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール | 2回公演 | 全1幕

プロダクションについて

新国立劇場では、毎シーズン日本人作曲家によるオペラを上演しています。その代表作ともいえる『夕鶴』は既に日本、そして世界各地で 800 回以上上演されている名作です。團伊玖磨は「エネルギーのすべてを注ぎ込んで出来上がった作品で、私自身のオペラ創作の出発点です」と語っています。初演は 1952 年、27 歳の團自身の指揮で大成功を収めました。新国立劇場のプロダクションは、2000 年栗山民也が民話「つるの恩返し」をもとに初のオペラ演出を手がけたもので、関西公演では今回が初めての上演となります。日本語の美しさを再認識する作品です。



2011 年公演より

あらすじ

【第1場】一面の雪の中にぽつんと一軒のあばら家。のどかな村に赤い夕焼けが広がる。働き者の与ひょうと妻のつうは仲のいい夫婦だが、つうの織る布は「鶴の千羽織」と喜ばれ、町で驚くほどの値段で売れた。村人の運ずと惣どは、つうの織る布の見事さを不思議がり、ある日機屋を覗くと、そこに鶴の羽が落ちている。与ひょうが以前鶴を救った話をするのを聞いて、二人はつうを鶴の化身ではないかと疑い、その確信を深める。二人は与ひょうに「鶴の千羽織」は都で売ればもっと高い値がつく、物見遊山も兼ねて都に行こうと誘う。与ひょうは妻にあの布を織ってほしいと頼むが、つうは前回織ったのが最後の約束だったと断る。しかし、欲に溺れた与ひょうは「布を織れ」と叫ぶ始末。嘆き悲しむつうだが、与ひょうのためと決心をして機屋に姿を消す。運ずと惣どは与ひょうの止めるのも聞かずに中を覗く。そこには、鶴が一羽いるきりだった。与ひょうはつうを探しに外に出ていく。

【第2場】翌日の夕方、雪の野原をさまよった末、倒れていた与ひょうが運ずと惣どに介抱されていた。そこにやせ細ったつうが、一晩と一日がかりで織り上げた二枚の布を持って機屋から出て来る。そして「あれほど固く約束しておいたのに、あんたはどうして中を見てしまったの」と与ひょうを責める。泣きながら別れを告げるつうは鶴の化身。本当の姿を見られたからには、もはや人間の世界では生きてはいけない。夕映えの頃、一羽の鶴が飛び去った空に、妻を呼ぶ声がする。与ひょうは二枚の布を抱きしめて悄然と立ち尽くすばかりであった。

團伊玖磨

夕鶴

Dan Ikuma / YUZURU

全1幕〈日本語上演〉

指揮……………石坂 宏
Conductor Ishizaka Hiroshi

演出……………栗山民也
Production Kuriyama Tamiya

美術……………堀尾幸男
Scenery Design Horio Yukio

衣裳……………植田いつ子
Costume Design Ueda Itsuko

照明……………勝 次郎
Lighting Design Katsushiba Jiro

振付……………吾妻徳彌
Choreographer Azuma Tokuya

	〈10月30日〉	〈10月31日〉
つ う……………	石橋栄実	針生美智子
Tsu	Ishibashi Emi	Hariu Michiko

与ひょう……………	望月哲也	大槻孝志
Yohyo	Mochizuki Tetsuya	Otsuki Takashi

運 ず……………	吉川健一	柵 貴志
Unzu	Yoshikawa Kenichi	Masu Takashi

惣 ど……………	久保和範	北川辰彦
Sodo	Kubo Kazunori	Kitagawa Tatsuhiko

管弦楽……………大阪フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Osaka Philharmonic Orchestra

2013年10月30日(水) 2:00 31日(木) 1:00

尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール

【チケット料金(税込)】

全席指定: 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般・大人)

三文オペラ

Die Dreigroschenoper

中劇場 | 2回公演 | 全3幕〈日本語上演／字幕付〉

全国各地の優れた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」。平成17年度から“現代舞台芸術に関する地域交流”事業として行っています。平成25年度公演は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの『三文オペラ』を招聘します。

新国立劇場は1997年にオペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のための我が国唯一の国立劇場として開場し、本年開場15周年を迎えます。びわ湖ホールは98年に開館、来年2013年が開館15周年となります。開館以来、国内外の優れた舞台芸術を提供するとともに、劇場独自の創造活動の核となる劇場専属声楽家集団びわ湖ホール声楽アンサンブルを設立して、オペラをはじめとする舞台芸術作品を自主制作しています。

ドイツを代表する、演劇界の革命児ブレヒトの戯曲に作曲家クルト・ワイルが音楽を付した『三文オペラ』は、20世紀音楽劇の最高傑作といわれています。冒頭の〈メッキー・メッサーのモリタート〉は、今ではジャズのスタンダード・ナンバー「マック・ザ・ナイフ」として親しまれています。今回演出を手掛けた栗山昌良はこの作品に取り組むに当たり“声楽による音楽でしかできない人間喜劇。未来に向けた試金石となる事を目指します”と語っています。

なお、本プロダクションは、12年10月にびわ湖ホール 中ホールで上演され大好評を博したもので、13年7月12日(金)、14日(日)に新国立劇場 中劇場において招聘公演を行うものです。



2012年びわ湖ホール公演より

あらすじ

舞台は19世紀末のロンドン。悪党の親玉メッキー・メッサーは、紳士的な身なりをした色男でこれまでに数々の女をモノにしてきた。ある日街で偶然出会った下町ソーホーの娘ポリーを見染め、出会った10日後にメッキーの子分である泥棒達に祝福され、馬小屋で結婚式をあげる。しかしポリーは乞食商会(乞食を作り上げ、人々の慈悲を授かることをなりわいとする)を営んでいるピーチャムの娘であり、自分の闇商売がメッキーにばれることを恐れたピーチャムは娘を取り戻すため、「女王の戴冠式を妨害する」と警視総監ブラウンを脅しメッキーの逮捕を企てる。

メッキーはこれまでに犯した数々の罪を理由に告訴され、ポリーに後を託しロンドンから一時逃亡することを決断する。ところが娼館に立ち寄ったところで、愛人の一人である娼婦ジェニーの裏切りにより捕まってしまう。牢獄では面会に来たブラウンの娘ルーシーとポリーがメッキーを取り合って激しく言い争う。その混乱に乗じて、メッキーはルーシーの手助けにより牢獄から逃げ出すことに成功する。ピーチャムはブラウンを脅した通り、女王の戴冠式の妨害というまたとない騒動の準備に一生懸命になっている。ルーシーとポリーは互いがメッキーに弄ばれていたことを知り和解。再び捕えられたメッキーは投獄され絞首刑を言い渡される……。

クルト・ワイル

三文オペラ

Kurt Weill / Die Dreigroschenoper

全3幕〈日本語上演／字幕付〉

指揮……………	園田隆一郎
Conductor	Sonoda Ryuichiro
演出……………	栗山昌良
Production	Kuriyama Masayoshi
装置……………	増田寿子
Installation	Masuda Sumiko
衣裳……………	緒方規矩子
Costume Design	Ogata Kikuko
照明……………	原中治美
Lighting Design	Haranaka Harumi
振付……………	小井戸秀宅
Choreographer	Koido Hideie
メッキー・メッサー……………	迎 肇聡
Macheath	Mukai Tadatoshi
ピーチャム……………	松森 治
Peachum	Matsumori Osamu
ピーチャム夫人……………	田中千佳子
Mrs.Peachum	Tanaka Chikako
ポリー・ピーチャム……………	栗原未和
Polly Peachum	Kurihara Miwa
ブラウン……………	竹内直紀※
Brown	Takeuchi Naoki
ルーシー……………	本田華奈子
Lucy	Honda Kanako
酒場のジェニー……………	中嶋康子
Jenny	Nakajima Yasuko
スミス……………	西田昭広※
Smith	Nishida Akihiro
大道歌手……………	砂場拓也
Ballad singer	Sunaba Takuya
フィルチ……………	古屋彰久
Filch	Furuya Akihisa
泥 棒……………	青柳貴夫／島影聖人／二塚直紀※
Macheath's gang	Aoyagi Takao / Shimakage Kiyohito / Nizuka Naoki
	林 隆史／山本康寛
	Hayashi Takashi / Yamamoto Yasuhiro
娼 婦……………	岩川亮子／小林あすき／林 育子※
Whores	Iwakawa Ryoko / Kobayashi Asuki / Hayashi Ikuko
	松下美奈子／森 季子
	Matsushita Minako / Mori Tokiko
※びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー	
管弦楽……………	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
Orchestra	The College Operahouse Orchestra

2013年7月12日(金) 18:30 14(日) 14:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

S:9,450円・A:7,350円・B:5,250円・C:3,150円

【前売開始】2013年2月11日(月・祝)

OPERA

公演一覧

開場記念公演～2012/2013シーズン

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU★	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	97.10/10
	ローエングリン★	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	97.11/22
	アイーダ★	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバッコ	フランコ・ゼッフィレッリ	98.1/15
1998/ 1999	蝶々夫人★	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	98.4/8
	魔笛★	W.A. モーツァルト	大野和士	ミハエル・ハンベ	98.5/6
	ナブッコ★	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	98.6/18
	アラベッラ★	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	98.9/19
	セビリアの理髪師★	G.ロッシニ	マウリツィオ・ベニーニ	ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	98.10/9
	ヘンゼルとグレーテル★	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	98.11/27
	カルメン★	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	99.1/19
	天守物語★	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	99.2/13
	こうもり★	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	99.4/21
	罪と罰★	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	99.6/18
1999/ 2000	仮面舞踏会★	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	99.9/21
	マノン・レスコー★	G.プッチーニ	菊池彦典	ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	99.11/6
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュティ	栗山昌良	99.12/18
	ドン・ジョヴァンニ★	W.A. モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	00.1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	アントニオ・ピロツリ	栗國 淳／ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	00.2/20
	沈黙★	松村禎三	星出 豊	中村敬一	00.3/16
	サロメ★	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファールディング	00.4/11
	ドン・キホット★	J.E.F. マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジオーニ	00.5/7
	リゴレット★	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	00.6/11
	トスカ★	G.プッチーニ	マルチェット・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	00.9/21
2000/ 2001	魔笛	W.A. モーツァルト	村中大祐	ミハエル・ハンベ	00.10/10
	エウゲニ・オネーギン★	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー／ヴェラ・カルパチョフ	00.10/30
	青ひげ公の城★	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	00.11/24
	夕鶴★	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	00.12/2
	イル・トロヴァトーレ★	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	01.1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロツリ	アルベルト・ファッシーニ	01.2/5
	ラインの黄金★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	01.3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	01.5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	01.6/7
	マノン★	J.E.F. マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	01.7/5
	トゥーランドット★	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	01.9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	01.11/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	01.11/16
2001/ 2002	ドン・カルロ★	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	01.12/6
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	02.1/10
	忠臣蔵★	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	02.1/25
	ウェルテル★	J.E.F. マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	02.2/21
	ワルキューレ★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	02.3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファールディング	02.5/1
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	02.5/2
	カルメン★	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティアー	02.6/7
	椿姫★	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	02.9/5
	ルチア★	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリズミ・トラヴァリーニ	02.10/11
2002/ 2003	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	アントニオ・ピロツリ	栗國 淳	02.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	02.11/21
	ナクソス島のアリアドネ★	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	02.12/12
	光★	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	03.1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	03.1/31
	ジークフリート★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	03.3/27
	ラ・ボエーム★	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	栗國 淳	03.4/19
	オテロ★	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	03.6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	03.9/14

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2003/ 2004	フィガロの結婚★	W.A. モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	03.10/10
	トスカ	G. プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	03.11/9
	ホフマン物語★	G. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	03.11/28
	鳴神／俊寛★	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	04.1/30
	スペインの燦々★	M. ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	04.2/18
	サロメ	R. シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファールディンク	04.2/27
	神々の黄昏★	R. ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	04.3/26
	マクベス★	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	04.5/13
	ファルスタッフ★	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	04.6/25
	カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	04.6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師★	P. マスカーニ／R. レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	04.9/9
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	井上道義	栗國 淳	04.9/25
	エレクトラ★	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	04.11/11
	椿姫	G. ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	04.11/22
	マクベス	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	05.1/17
	ルル★	A. ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・バウントニー	05.2/8
	おさんー「心中天網島」より★	久保摩耶子	神田慶一	栗國 淳	05.2/25
	コジ・ファン・トゥッテ★	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	05.3/21
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	05.4/7
	フィデリオ★	L.v. ベートーヴェン	ミヒヤエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	05.5/28
	蝶々夫人★	G. プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	05.6/24
	ニュルンベルクのマイスタージンガー★	R. ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	05.9/14
2005/ 2006	セビリアの理髪師★	G. ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	05.10/14
	アンドレア・シェニエ★	U. ジョルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	05.11/20
	ホフマン物語	J. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	05.11/27
	魔笛	W.A. モーツァルト	服部謙二	ミヒヤエル・ハンベ	06.1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	06.2/4
	愛怨★	三木 稔	大友直人	恵川智美	06.2/17
	運命の力★	G. ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	06.3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P. マスカーニ／R. レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	06.4/5
	こうもり★	J. シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴァルトナー	ハインツ・ツェドニク	06.6/14
	ドン・カルロ★	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	06.9/7
2006/ 2007	イドメネオ★	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	06.10/20
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	06.11/30
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ミケーレ・カルツィ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	06.12/1
	さまよえるオランダ人★	R. ワーグナー	ミヒヤエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	07.2/25
	運命の力	G. ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチーニ	エミリオ・サージ	07.3/15
	蝶々夫人	G. プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	07.3/22
	西部の娘★	G. プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	07.4/15
	ばらの騎士★	R. シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	07.6/6
	ファルスタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	07.6/13
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦★	R. ワーグナー	フィリップ・オーキャン	ハンス＝ペーター・レーマン	07.10/8
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	07.10/18
2007/ 2008	カルメン★	G. ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	07.11/25
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	マウリツィオ・バルバチーニ	栗國 淳	08.1/20
	サロメ	R. シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファールディング	08.2/3
	黒船 一夜明け★	山田耕筈	若杉 弘	栗山昌良	08.2/22
	アイーダ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼツフィレッツィ	08.3/10
	魔弾の射手★	C.M.v. ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	08.4/10
	軍人たち★	B.A. ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	08.5/5
	椿姫	G. ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	08.6/5

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2008/ 2009	トゥーランドット*	G. プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	08.10/1
	リゴレット	G. ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	08.10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A. モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	08.12/5
	蝶々夫人	G. プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	09.1/12
	こうもり	J. シュトラウスII世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	09.1/27
	ラインの黄金	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.3/7
	ワルキューレ	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.4/3
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D. ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	09.5/1
	チェネントラ*	G. ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ボネル	09.6/7
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	09.6/25
2009/ 2010	オテロ*	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	09.9/20
	魔笛	W.A. モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	09.10/29
	ヴォツェック*	A. ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	09.11/18
	トスカ	G. プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	09.12/2
	ジークフリート	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.2/11
	神々の黄昏	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.3/18
	愛の妙薬*	G. ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	10.4/15
	影のない女*	R. シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	10.5/20
	カルメン	G. ビゼー	マウリツィオ・バルバチャーニ	鶴山 仁	10.6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	10.6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	10.10/2
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	10.10/10
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	10.11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R. ワグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	10.12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	11.2/4
	椿姫	G. ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	11.2/14
	マノン・レスコー* (公演中止)	G. プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R. シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	11.4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A. モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアン・ミキエレット	11.5/29
	蝶々夫人	G. プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	11.6/6
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G. ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ベーター	11.10/2
	サロメ	R. シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファールディング	11.10/9
	ルサルカ*	A. ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラ	11.11/23
	こうもり	J. シュトラウスII世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	11.12/1
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	コンスタンティン・トリンクス	栗國 淳	12.1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	12.2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	12.3/8
	オテロ	G. ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケーニツ	マリオ・マルトーネ	12.4/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	12.4/19
	ローエングリン*	R. ワグナー	ベーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	12.6/1
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B. ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	12.10/2
	トスカ	G. プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	12.11/11
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E ケップリンガー	12.11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R. ワグナー	コンスタンティン・トリンクス	ハンス＝ベーター・レーマン	13.1/23
	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	13.1/31
	アイーダ	G. ヴェルディ	ミヒャエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレリ	13.3/11
	魔笛	W.A. モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒャエル・ハンペ	13.4/14
	ナブッコ*	G. ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	13.5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアン・ミキエレット	13.6/3
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	13.6/1

Memo
